

- ・たまプラーザ駅南口から…徒歩約 5 分
- ・あざみ野駅から…徒歩約20分
- ・鷺沼駅から…徒歩約15分
- ・渋谷駅から…東急田園都市線(長津田・中央林間行)で、たまプラーザ駅まで約25分
- ・横浜駅から…横浜市営地下鉄ブルーライン(あざみ野行)終点あざみ野駅で、東急田園都市線(渋谷・押上方面行)に乗換え、たまプラーザ駅まで約30分
- ・羽田空港から…バスでたまプラーザ駅まで約50～70分

◆入学試験に関して  
**03-5466-0141** (入学課)

◆観光まちづくり学部について  
**045-904-7700** (たまプラーザ事務課)

〒225-0003  
 神奈川県横浜市青葉区新石川3-22-1  
 国学院大学  
 横浜たまプラーザキャンパス

観光まちづくり学部についてホームページで紹介しています。

私たちが目指す観光まちづくりについて、いっしょに学んでみませんか？

観光まちづくり学部  
ホームページ

観光まちづくり学部

GUIDEBOOK 2023

## 観光まちづくり学部

GUIDEBOOK 2023

# 地域の 夢

もっと日本を。もっと世界へ。

KOKUGAKUIN UNIV. | 国学院大学

国学院大学

ようこそ！  
観光まちづくり学部へ

新たに観光まちづくり学部がスタートして1年が経過しました。この間、皆さんの1年先輩の1期生と試行錯誤しながら、1年間のカリキュラムを並走してきました。そしてここに、2期生の皆さんをお迎えできることを大変うれしく思います。地域に軸足を置いた観光とまちづくりを目指す本学部は、ひろく日本全体を見渡しても新しい試みです。私たちはこれから新たな伝統を築き上げていく同志でもあるのです。

皆さんは今、大学生活の入り口に立って、大学生活に期待と不安が入り混じった心境だと思います。私たちは新学部開設からの1年間を経験して、皆さんを迎え入れるにあたり、コミュニケーションに工夫を凝らし、皆さんの期待にこたえられるよう、さらにパワーアップした講義を用意しています。新入生の皆さんが安心して充実した大学生活を送れるように、教職員一同、力を合わせていきたいと思ひます。必要なことは何でも問題提起してください。

学生と教職員とが一体となって、新しい学部の道すじを付けていきたいと思ひます。道は私たちの前にあるのではなく、私たちが歩いた跡が道になっていくのです。

私たちがつくり上げようとしている「観光まちづくり」という学問は、地域の夢に形を与えることを目指す、前向きな学問です。そのための知恵と技術の体系をともに組み立てていきたいと思ひます。そうした営みが地域に新しい息吹を吹き込み、可能性を広げることにつながるのです。住んでいる人にとって充実感が持てる地域は、訪れる人にとっても魅力的な地域のはずです。その手がかりとしてこの学部ガイドブックを用意しました。ようこそ！ 私たちみんなでつくる観光まちづくり学部へ。

國學院大學 観光まちづくり学部  
学部長 西村 幸夫



目次

P 2	学部の紹介	P 34	進路・就職
P 6	教員の紹介	P 38	地域マネジメント研究センター
P 8	大学の紹介	P 42	学内施設等案内
P 10	カリキュラム	P 48	地形図で見るたまプラーザキャンパス
P 26	学生インタビュー	P 50	入試情報
P 32	学びのサポート	P 52	アクセス情報



# 観光まちづくりとは —キーメッセージを読み解く—

観光まちづくり学部 学部長 西村 幸夫

「地域を見つめ、地域を動かす」——これは私たち観光まちづくり学部が最初に掲げたメッセージです。では、実際に地域の現場で何をどうすれば、「地域を見つめ、地域を動かす」ことになるのかについて、4つの柱を立て、それぞれ2つずつのメッセージに分解して図にしたのが、次ページの一覧です。

4つの柱とは番号順に、地域環境、地域社会、地域経済、そしてそれら全体のマネジメントを表しています。4つの大きなアイコンが目印です。

まず1つ目の柱、地域環境に関して、観光まちづくりという視点でこれに接近する手立てとして「地域の個性をみつけ、みがく」ことを挙げています。さらにその下に、2つの小さなアイコンがあります。地域の個性をみつけるといことが地域の物語の読み解きとして示され、地域の資源を活かすことが地域を元気にし、ひいては地域環境を守ることもつながるのです。

同様に2つ目の柱、地域社会に関しては、大切にすべきものとしてローカルマーケットと、つながり自体のワクワク感を挙げています。地域の人々にとって元気が出るようなつながり方が大切なのですね。

3つ目の柱、地域経済については、地域内での経済循環、いわゆる地産地消の大切さと、レジリエンス向上の推進を取り上げています。

ここまでの3つの柱は観光まちづくりを進める際の基本となるものです。いずれが欠け

ても観光まちづくりは成立しません。そしてこれらは地域のサステナビリティを支える3本柱でもあります。

最後のアイコンが先述の3本柱を支えるマネジメントに関するものです。それは人材と仕組みづくりから成っています。多様な人材が世代を超えて結びつき、継続的に物事に取り組めるような仕組みをつくることによって、観光まちづくりがサステナブルなものになっていくのです。

観光まちづくり学部のカリキュラムも、これら4つの柱を中心に組み立てられています。専門教育の中核となる展開科目はⅠ類(社会)、Ⅱ類(資源)、Ⅲ類(政策・計画)、Ⅳ類(交流・産業)から成っていますが、この4つの類の構成は、おおむねそれぞれの柱に対応しています。そしてこれらを横つなぎするのが、必修の観光まちづくり演習です。地域の現場に出かけることによって、「地域を見つめ、地域を動かす」とは具体的にはどういうことなのかを体感するプログラムになっているのです。

観光まちづくり学部は地域に軸足を置くことによって、魅力ある地域づくり・魅力ある観光地づくりのエキスパートを育てることを目指しています。これが、私たちが目指す観光まちづくりです。

さあ、観光まちづくりから広がる世界の扉を、ぜひ開けてみてください。——そこからあなたの物語が始まるのです。

わたしたちが目指す  
 「観光まちづくり」キーメッセージ  
 —地域を見つめ、地域を動かす—



### 1. 地域の個性をみつけ、みがく

いつの時代でも地域をじっくり見つけ、地域の個性をみつけ、みがいていくことが「観光まちづくり」の出発点です。



**地域の物語を読み解き、伝える**  
 自然や歴史、文化に育まれた「地域の物語」を丁寧に読み解き、地域の人々にも訪れる人々にも伝えていきます。



**地域の資源を活かすことで守る**  
 地域の資源を活かすことが、地域の資源と環境を守ることにつながる「循環的な仕組み」をつくっていきます。





### 2. 地域の多様なつながりをつくり、活かす

日々の暮らしや交流の中にある多様で多層なつながりを見つめなおし、地域課題の解決へ活かしていきます。

### 3. 地域の暮らしを支え、豊かにする

人口減少・少子高齢化のなか、地域外の人々と共に、地域の暮らしを支え、豊かにする「観光まちづくり」を目指します。



**地域に愛されることを大切にする**  
 地域の人々に日常的に愛されるモノ・コトを大切に、つながりを広げます。



**観光や交流の恵みを地域内で循環させる**  
 多様な生業に関わる人々が連携して、観光や交流による恵みを地域内に広く波及、循環させていきます。



**地域で出会えるワクワク感を大切にする**  
 地域でのリアルな空間体験と出会いによるワクワクを生み出し、活かしていきます。



**地域のレジリエンスを高める**  
 地域内外の多様な人々との支え合いで、日常的に地域の足腰を強くし、危機や変化にしなやかに対応できる地域を目指します。



### 4. 地域の未来をつくる人材と仕組みを育てる

地域の未来のために、夢をもって活動できる人材と、継続的に取り組める仕組みをじっくり育てていきます。



**多様な人々が活躍できる場をつくる**  
 様々な背景の人々、幅広い世代が、個性を活かして活躍できる場をつくっていきます。



**継続して取り組める仕組みをつくる**  
 「観光まちづくり」を継続するための社会的・経済的な仕組みをつくり、地域を動かします。

4

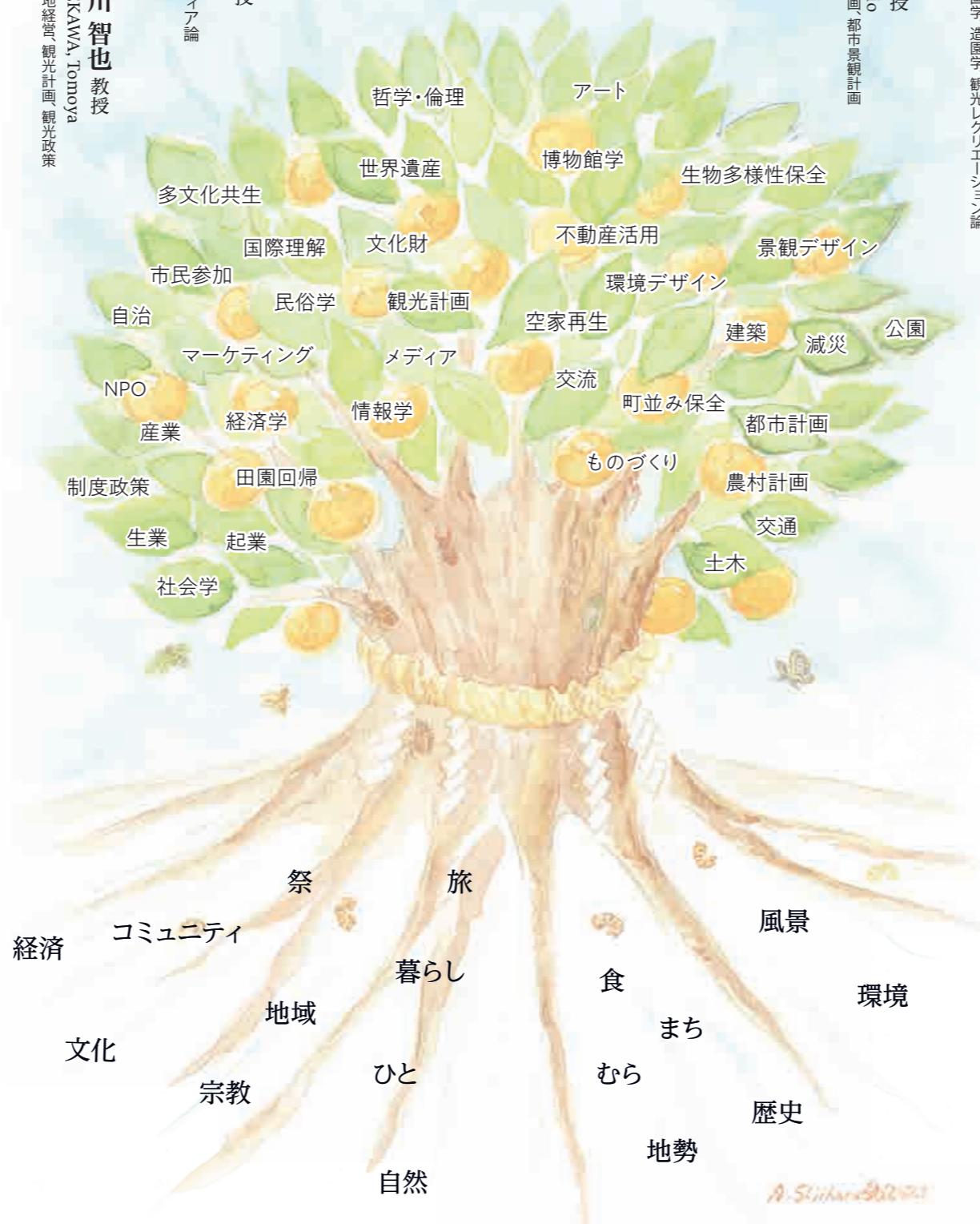
5



観光まちづくり学部・教員紹介

- 石本東生 教授**  
ISHIMOTO, Tohsei  
欧州の観光政策、文化観光
- 吉見俊哉 教授**  
YOSHIMI, Shunya  
社会学、都市論、メディア論
- 梅川智也 教授**  
UMEKAWA, Tomoya  
観光地経営、観光計画、観光政策
- 小林裕和 教授**  
KOBAYASHI, Hirokazu  
観光学、観光イノベーション、観光DX、持続可能性
- 楓千里 教授**  
KAEDA, Chisato  
地域の観光情報システム
- 松本貴文 准教授**  
MATSUMOTO, Takafumi  
農村社会学、地域社会学
- 塩谷英生 教授**  
SHIOYA, Hideo  
観光統計、観光経済、旅行市場分析
- 小林稔 教授**  
KOBAYASHI, Minoru  
民俗学、文化財保護論
- 河尻珍 准教授**  
HA, Kyungjin  
社会学、T/コミュニケーション、PR
- 井門隆夫 教授**  
IKADO, Takao  
観光経営論、観光マーケティング
- 米田誠司 教授**  
YONEDA, Seiji  
公共政策、観光政策
- 石垣悟 准教授**  
ISHIGAKI, Satoru  
民俗学、博物館学、文化財保護論
- 潘梦斐 助教**  
PAN, Mengfei  
文化社会学、ミニシアター・スタディーズ、近代アジア美術
- 高和雄 准教授**  
KASAMI, Kazuo  
地域計画、都市農村交流、移住・定住
- 藤岡麻理子 准教授**  
FUJIOKA, Mariko  
文化遺産学、歴史的環境保全
- 中川雄大 助手**  
NAKAGAWA, Yudai  
社会学、都市研究
- 稲葉あや香 助手**  
INABA, Ayaka  
社会学、文化人類学、メディア文化研究

観光まちづくり



- 堀木美告 教授**  
HORIKI, Mitsuho  
造園学、観光計画、観光資源論
- 児玉千絵 専任講師**  
KODAMA, Chie  
都市計画、都市デザイン、ストックマネジメント
- 山島有喜 助手**  
YAMASHIMA, Yuki  
風景計画学、造園学、観光計画、都市緑地
- 石山千代 准教授**  
ISHIYAMA, Chiyo  
地域イノベーション、歴史的環境保全、観光計画、情報観光行動論
- 仲野潤一 専任講師**  
NAKANO, Junichi  
AR/VR、メタバース、VR/AR、情報観光行動論
- 劉銘 助手**  
LIU, Ming  
造園学、風景計画学、ランドスケープデザイン
- 下間久美子 教授**  
SHIMOTSUMA, Kumiko  
文化財保護論、都市保全、文化財保護
- 楊惠巨 専任講師**  
YANG, Hui-Hsuan  
都市保全、都市デザイン、ランドスケープデザイン
- 黒本剛史 助手**  
KURUMOTO, Takeshi  
都市計画、建築学、都市保全
- 浅野聡 教授**  
ASANO, Satoshi  
都市計画、景観計画、防災・復興まちづくり
- 大門創 准教授**  
DAIMON, Hajime  
都市計画、交通計画
- 清野隆 准教授**  
SEINO, Takashi  
ランドスケープデザイン、デジタル・テクノロジーのまちづくり
- 十代田朗 教授**  
SOSHIRODA, Akira  
社会学、都市・地域・国土計画、観光計画
- 椎原晶子 教授**  
SHIHARA, Akiko  
都市計画、建物保存再生、エリアアート
- 南雲勝志 教授**  
NAGUMO, Katsushi  
公共空間に於けるプロダクトデザイン、杉を用いたプロダクトデザイン
- 西村幸夫 教授**  
NISHIMURA, Yukio  
都市計画、都市保全計画、都市景観計画
- 下村彰男 教授**  
SHIMOMURA, Akio  
風景計画学、造園学、観光レクリエーション論



飯田町校舎(明治41年竣工)



## 國學院大學～その歴史と理念～ そして観光まちづくり学部誕生へ

國學院大學は、1882(明治15)年に創立された皇典講究所を出発点としています。そして、1890(明治23)年にこれを母体として「國學院」と称すこととなりました。

「國學院大學学則」第1条には「本学は神道精神に基づき人格を陶冶し、諸学の理論並びに応用を攻究教授し、有用な人材を育成することを目的とする」と規定されています。つまり、その研究・教育の理念は、諸学問を通じて日本の伝統文化を明らかにして、国や地域への貢献、国際社会の発展に寄与するとともに、自己の個性を最大限に発揮することのできる人材を育成することにあります。

國學院大學は、この建学の精神である「神道精神」(日本人としての主体性を保持した寛容性と謙虚さ)に基づき、その学問の基礎を日本の伝統文化を探究する「国学」に求めて、多種多彩な諸学問による研究・教育を行い、明治・大正・昭和・平成と、様々な分野に多くの有為な人材を送り出してきました。

1985(昭和60)年、「たまプラーザキャンパス」を設け、平成に入ると、2002(平成14)年の創立百二十周年を期して、「國學院大學21世紀研究教育計画」を策定し、渋谷キャンパスの再開発、人間開発学部や研究開発推進機構の設置を行いました。

そして令和の時代。創立百四十周年を迎えた2022(令和4)年4月、たまプラーザキャンパスに新たな学部「観光まちづくり学部」が誕生し、さらなる発展をめざしています。

新しい学部での新しい学びを通じて、自己の個性を最大限に発揮し、地域を、そして日本を引っ張っていく人材になりましょう。

三矢重松教授の授業風景(大正5年)



新石川校舎(昭和60年)



## たまプラーザキャンパスの歴史と環境

たまプラーザキャンパスは、1985(昭和60)年に八王子分校舎から移転した新石川校舎が始まりです。その後、1992(平成4)年から授業が始まり、2009(平成21)年には人間開発学部が開設されました。そして、2022(令和4)年、国内の大学ではほぼ唯一となる観光まちづくり学部が開設されました。

たまプラーザキャンパスは、八王子から連なる多摩丘陵の一角にあります。キャンパス内も教育棟のある高台、球技場などのある窪地からなり、台地や丘陵が連なる横浜ならではの地形を実感できます。キャンパスには桜の古木も多く、桜の名所にもなっています。

また、東急田園都市線たまプラーザ駅より徒歩わずか5分という好立地にあるいっぽうで、周囲は閑静な住宅地となっており、キャンパスも緑豊かで穏やかな空気に満ちています。

この至便かつ落ち着いた雰囲気は、観光まちづくり学部のキャンパスにふさわしいものといえましょう。



中庭から若木21を望む(平成14年)

## こくぴょんと観光まちづくり

こくぴょんは、國學院大學の公式キャラクターです。学生がデザインしました。

『古事記』の中の神話の1つ「因幡の白兔」に登場する白いウサギがモチーフで、耳には榊の葉を飾り、首から勾玉をかけています。頑張り屋さんですが、マイペースな性格です。入学式や卒業式などの式典や、オープンキャンパスなどのイベントではキャンパスにも現れることもあります。「キャンパス内でこくぴょんに会おうと、その人に良いことがある」とも言われています。

観光まちづくり学部のこくぴょんもいます。地域に出かけ、地域を見つめ、地域とともに考え、地域を動かそうとする意欲に満ちあふれています。





## 観光まちづくり学部の理念・学位授与方針

観光まちづくり学部では、地域に対する深いまなざしに基づき、地域社会の現状と課題を理解し、地域資源の保全活用と地域を動かす様々な人々の連繋によって、地域を主体とした観光や交流を促すとともに、活力あふれる地域を実現できる人材を養成します。

そのために、社会、資源、政策・計画、交流・産業に関する知識・技能を身につけ、地域の実情に応じた将来像を構想し、多くの人々と協働しつつ、よりよい未来へ向けての計画や提案を行い、実装に向けて行動できる意欲と能力を有した人材を養成するための教育を行います。

### 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

#### 【知識・技能】

**DP-A1** 多様な現代社会を理解する深い教養を身につけ、観光や交流が地域にもたらす影響を多角的・批判的に理解している。

**DP-A2** 地域の課題解決に向けて、地域をとりまく社会構造や社会意識の様態、資源の特性を理解し、観光まちづくりの方策としての政策・計画及び交流・産業に関する知識を身につけている。

**DP-A3** 観光や交流を通じた活力あふれる地域の実現に向けて、具体的な地域の特性や課題を的確に把握・分析できる。

#### 【思考力・判断力・表現力】

**DP-B1** 学修した知識や技能を活用して、具体的な地域を対象とした観光や交流に関する施策の可能性と、それらが活力ある地域の実現にどのように貢献するかについて、理念と根拠に基づき自らの考えを述べることができる。

**DP-B2** 自らの考えや他者に伝えたい事実について、その実証的根拠を明らかにして、口頭説明や文章、図表、造形物等によって表現し、適切に伝えることができる。

#### 【主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度】

**DP-C1** 社会の多様性を尊重し、様々な文化的背景を持った他者との共同作業や対話を通じて自分の考えを深めることができる。

**DP-C2** 学修した知識や技能を活用して、現実の地域社会に働きかける実践的な態度で学ぼうとする。

以上の能力を身につけるために設けられた教育課程を履修して所定の単位を修得した者に「学士(観光まちづくり)」(英訳名称：Bachelor of Tourism and Community Development)の学位を授与します。



## 履修について

### 卒業に必要な単位

観光まちづくり学部では、共通教育科目を26単位以上、専門教育科目を74単位以上修得し、かつ全体で124単位以上修得することを卒業要件としています。自由選択領域の24単位は、学生が自らの興味・関心に基づいて共通教育科目、専門教育科目、全学オープン科目から自由に修得できます。

#### 卒業要件

科目区分	卒業に要する 単位数
共通教育科目	26単位以上
専門教育科目	74単位以上
自由選択領域	24単位
合計	124単位以上

#### 専門教育科目の履修条件

科目区分		履修方法	単位数	
導入科目		必修科目	4単位	
メソッド科目		必修科目	2単位	
		選択必修科目	4単位以上	
演習科目		必修科目	18単位	
		選択必修科目	2単位以上	
展開科目 44単位以上	基礎 26単位以上	I類 (社会)	選択必修科目 4単位以上	
		II類 (資源)	必修科目	2単位
			選択必修科目	4単位以上
		III類 (政策・計画)	必修科目	2単位
	選択必修科目		4単位以上	
	IV類 (交流・産業)	必修科目	2単位	
選択必修科目		4単位以上		
発展		選択科目	12単位以上	

### 共通教育科目

- 共通教育科目は、大学で学修する上でも生涯学び続ける上でも必要なスキル、社会に主体的に参加するために必要な知識やスキルを修得する全学共通のカリキュラムで、6つの科目群からなります。
- 観光まちづくり学部の学生は、必修科目として國學院科目群の「神道と文化」と言語スキル科目群の「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」を履修し、選択必修科目として「第二外国語Ⅰ」「第二外国語Ⅱ」※を履修します。その他は、STEM系科目群から1科目以上を履修することが履修条件となっていますが、各自が自由に組み合わせて履修することができます。

※第二外国語は、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、スペイン語の中から自身で選択した同一の言語を履修します。

國學院科目群	共通教育 科目	言語スキル科目群
STEM系科目群		シチズンシップ科目群
専門教養科目群		ライフデザイン科目群



専門教育科目

- ・導入期(1年前期)から基礎期(1年後期～2年前期)は、多様な社会のあり方に対する構造的な見方の基礎となる社会学の学びと、観光や交流が地域に与える影響の多面性や地域に働きかけるまちづくりの基本的な知識と考え方を身につけます。
- ・発展期(2年後期～4年後期)には、学生の興味・関心及び希望する進路に応じて、観光まちづくりに関連するさらに多様な分野の応用的・実践的学びへと深めていきます。
- ・導入期から発展期までの4年間を通して、演習科目が開講され、学修した知識・技能を統合し、地域における観光まちづくりに貢献する実践的な力へと結びつけていきます。

図：専門教育科目の構成と開講年次

		1年次		2年次		3年次		4年次	
		導入期		基礎期		発展期			
専門教育科目	導入科目	●社会学概論 ●まちづくりと観光							
	メソッド科目	●社会調査法入門		●統計分析の基礎 ●プログラミングと数学基礎	●パブリックデザイン(地域と公共空間)	●質的調査法 ●データサイエンス ●プロダクトデザイン(地域と杉)	●多変量解析 ●地理空間情報分析		
	演習科目	●導入ゼミナール		●基礎ゼミナールA	●観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法) ●基礎ゼミナールB	●観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析)	●観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) ●専門ゼミナール(通年)		●卒業研究(通年)
	基礎	I類 社会	●文化社会学 ●コミュニケーション論		●地域と環境の社会学 ●グローバルイノベーション論				
		II類 資源	●地域資源論 ●博物館概論		●保全生態学概論 ●民俗学概論 ●都市建築史				
		III類 政策・計画	●公共政策概論		●地方自治概論 ●地域デザイン論 ●国土・都市計画論 ●都市と地域の交通				
		IV類 交流・産業	●観光学概論 ●観光マーケティング		●観光政策・計画論 ●観光事業論				
	発展	I類 社会			●ジェンダーの社会学 ●都市とメディアの社会学	●観光社会学 ●コミュニティ論 ●NPOと市民社会	●文化人類学		
		II類 資源			●風景計画論 ●レクリエーション計画論 ●地域文化創造論 ●地域遺産論	●自然/環境保護行政概論 ●文化行政・文化財行政概論	●世界遺産論		
		III類 政策・計画			●行財政概論 ●まちづくり論 ●農山漁村論	●住民参加と合意形成 ●都市保全論 ●交通計画 ●地域減災論	●リノベーション論 ●アートと地域振興		
IV類 交流・産業				●観光行動論 ●ホスピタリティ・マネジメント論 ●旅行産業論 ●宿泊産業論 ●地域の観光情報メディア	●観光地経営論 ●観光食マネジメント論 ●世界の観光政策	●観光経済論 ●田園回帰論			
トピックス科目		●経営学概論	●地域ブランディング論	●運輸・観光実践論 ●ソーシャル・イノベーション	●不動産投資論	●観光危機管理論 ●文化芸術政策論			
関連科目	●哲学・倫理学	●地理学概論	●神道と環境Ⅰ	●神社ネットワークⅠ ●地域と都市の経済 ●観光心理学 ●博物館教育論※ ●博物館資料保存論※	●観光まちづくりインターンシップ(通年)	●博物館展示論※ ●博物館情報・メディア論※	●博物館経営論※ ●博物館実習A※	●博物館実習B(通年)※	

太字：必修科目 ※博物館学芸員課程

導入科目：観光まちづくりの専門教育への入り口

観光まちづくりの専門教育への円滑な導入を図るため、社会学の基本的な理論と、観光や交流を通じたまちづくりの基本的な考え方を学ぶ以下2科目を導入期(1年前期)の必修科目としています。

社会学概論(1年前期・必修)

人間は、社会的存在である。私たちは社会の中に生きているが、社会のことをどれくらい知っているのだろうか。社会は、個人間の相互作用から、家族やコミュニティのような集団・組織、さらには国家と国民の関係に至るまで様々であり、その範囲も非常に幅広い。社会学は、このように広範で複雑な社会の現象を分析し、その構造と変動を明らかにする学問である。

この科目では、社会が人々の行動や思考にどのような影響を与えるか、また、社会構成員はそれにどう反応し、社会を創り上げてきたかを理解するために、社会学の基礎概念、理論、手法を幅広く学ぶ。「近代化」という共通の問いを念頭に置きながら、各回では、政治、経済、技術、文化の諸要因とともに、家族や地域社会、都市と農村、個人の日常生活がどのように変容してきたかを学ぶ。それを踏まえ、社会を多面的、かつ批判的に捉えるための思考力を身につけ、社会の問題と向き合い、より良いあり方を考えるための手がかりを模索する。

まちづくりと観光(1年前期・必修)

観光まちづくり学部が目指す観光や交流を通じた持続可能な地域づくりへ向けて、「地域を見つめ、地域を動かす」ための基本的な考え方と複眼的な見方にふれ、これからの4年間で学ぶべきことの見取り図を得る。

前半では、「まちづくり」と「観光」に関連する基本的な理論と議論を通史的に学んだ上で、首都圏の宿場町や地方の大都市・中小都市等の事例をもとに、「まちづくり」と「観光」双方の出発点及び接点となる「地域の個性」をみつけるための基本的な考え方と見方にふれる。

後半では、「まちづくり」と「観光」の接点が豊富な都市観光地、町並み観光地、温泉地、農山村、自然観光地等の事例をもとに、それぞれの地域が抱える課題と背景を踏まえた上で、「地域の個性」を守り、磨いていくための基本的な道筋と方法の枠組みにふれる。そして、「まちづくり」と「観光」に関わる主体と取組の多様性に気づくことを目指す。

メソッド科目：観光まちづくりの実践を支える調査分析手法やデザイン手法を学ぶ

- ・観光まちづくりの実践に不可欠な社会的な調査手法と、具体的な地域を対象とした分析技術やデザイン手法を身につけるため、以下の9科目を用意しています。
- ・導入期(1年前期)の必修科目として「社会調査法入門」を履修した後は、学生が自らの興味・関心に応じて、2科目4単位以上を履修します。
- ・専門ゼミナール(3年次)や卒業研究(4年次)の所属ゼミやテーマ、自身の進路等を視野に入れて、積極的に履修することを推奨します。

1年次開講：社会調査法入門(必修)／統計分析の基礎／プログラミングと数学基礎

2年次開講：質的調査法／データサイエンス／パブリックデザイン／プロダクトデザイン

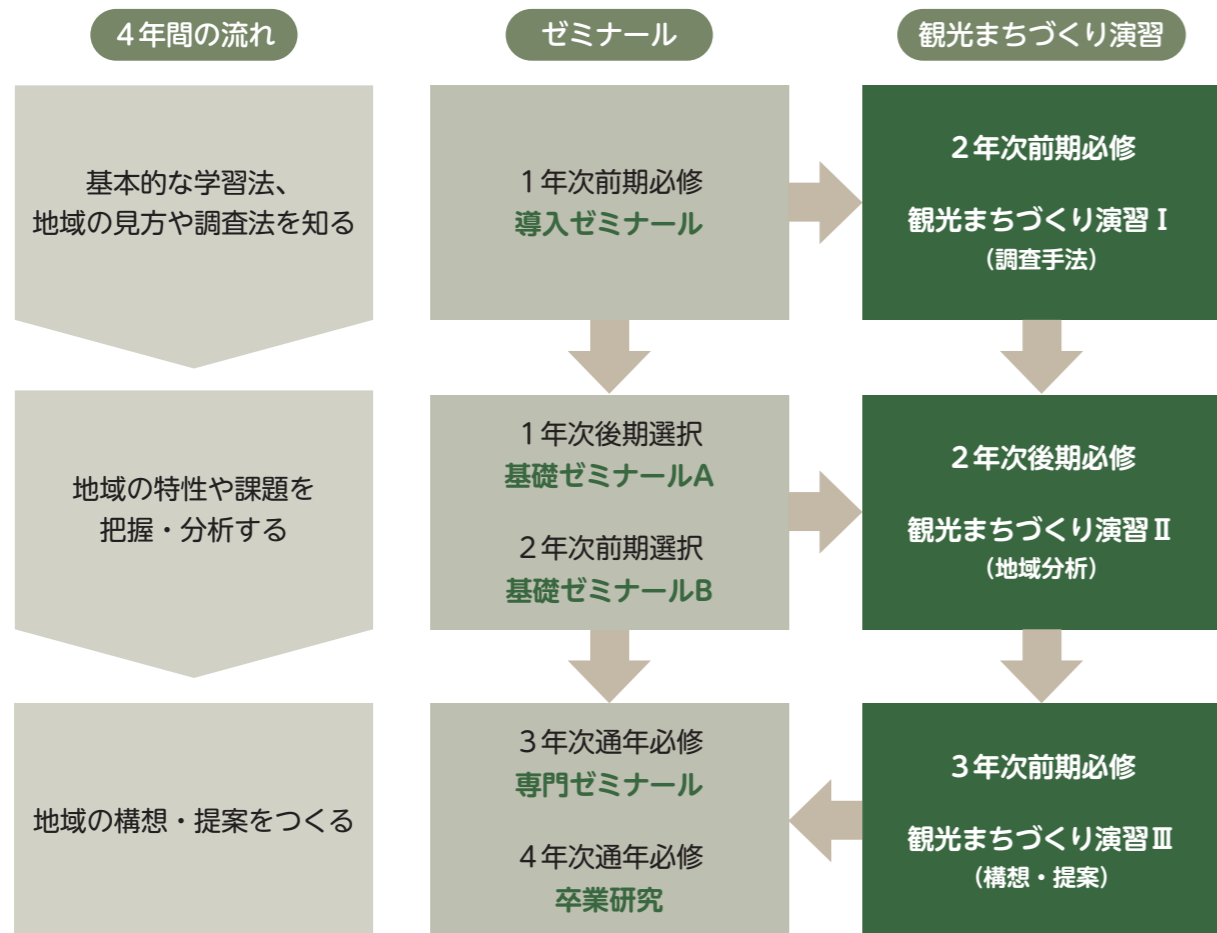
3年次開講：多変量解析／地理空間情報分析





## 演習科目：課題解決型学習で観光まちづくりを実践的に学ぶ

- ・演習科目は、各専門分野の個別知識や技能を統合的に活用し、学びの段階に応じた課題解決型学習を通じて、実際の地域へ「提案」を行う能力を実践的に身につけていきます。
- ・各専門分野の教員による少人数教育のゼミナールと、グループワークを重視した観光まちづくり演習で段階的・継続的に学び、4年間かけて必修6科目18単位、選択必修1科目2単位以上を履修します。
- ・観光まちづくり学部での学びの集大成として、3年から4年次にかけて卒業研究に取り組みます。



## 展開科目：観光まちづくりに関わる多様な専門領域の学び

- ・観光まちづくりに関わる多様な専門領域の知識を身につけます。
- ・I類(社会)、II類(資源)、III類(政策・計画)、IV類(交流・産業)の4分野から構成しています。
- ・基礎期(1年後期～2年前期)には、4分野のバランスのとれた学びによって、観光や交流が地域にもたらす影響の幅広い理解と、観光まちづくりの方策に関する基礎的理解が図れるよう、細かな履修条件を設定しています。
- ・発展期(2年後期～4年)には、より深い社会構造や観光まちづくりの具体的でより専門的な方策への理解が図れるよう、学生自身の興味・関心に応じた選択的・主体的な履修を重視しています。
- ・2年前期までに26単位修得を目指し、卒業までには44単位以上を履修します。



## I類(社会)：地域を取り巻く社会の構造及び社会意識の実態や課題を学ぶ

- ・I類(社会)の科目では、現代社会の構造と意識、未来への課題に関する理解を促し、大都市から地方農村までの異なる地域で生起する社会・文化現象を、歴史的背景を含む多様な社会的、産業的、政策的文脈の中で位置づけることができる能力を養います。
- ・基礎期には4科目を開講し、2科目4単位以上を履修条件としています。
- ・発展期には6科目を開講します。各自の興味・関心や希望進路に応じて履修してください。

### 【基礎期】

1年後期開講：文化社会学／コミュニケーション論

2年前期開講：地域と環境の社会学／グローバル化論

### コミュニケーション論(1年後期) \\PICK UP!\\

私たちは、常に誰かと何かについてコミュニケーションしている。日々実践しているこの「当たり前」な営みを、社会学的視点から捉え、主要概念、理論、歴史、具体例を学ぶことで、学問の対象として理解する。コミュニケーションは、自我と他者、個人と社会を結び相互作用を生み出し、その様相はことば、文字、映像など、多様である。集団と組織における異なる文化や価値観を媒介することも重要な役割の一つである。

前半では、コミュニケーションの原理を理解するために基礎概念を整理する。後半では、メディア社会／大衆社会の中でコミュニケーションがどのように発展してきたかを学ぶ。現代社会を形づくってきた様々な専門分野の特徴を、歴史や具体例を通じて知ることで、よりよいコミュニケーションのあり方を考える手がかりを理解する。

### 地域と環境の社会学(2年前期) \\PICK UP!\\

社会学の中でも地域社会(コミュニティ)の仕組みや、社会と環境との関わりに関連する領域である、農村社会学、地域社会学、環境社会学の基礎的な考え方について学び、これからの地域社会による環境(山、川、景観など)の保全と利用のあり方について考えていく。

その際、「生活」という視点を1つの軸とし、地域住民の生活との関わりに重点を置く学説や実践事例を中心に学び、理解する。こうした作業を通して、ボトムアップ型の社会を実現するためにどのような仕組みが必要なのか、具体的に考えていく。

### \\PICK UP!\\

当該科目区分内からの一部科目の概要紹介です。詳細及び他の科目については、シラバスを参照してください。

### 【発展期】

2年後期開講：ジェンダーの社会学／都市とメディアの社会学

3年以降開講：観光社会学／コミュニティ論／NPOと市民社会／文化人類学

### 都市とメディアの社会学(2年後期) \\PICK UP!\\

社会学はコンテクスト=文脈の学である。都市とメディアの社会学は、都会／都市を成り立たせ、変容させる歴史社会的文脈や、そうした都市の中でのメディア変容を文脈的に把握する力を育てる。

都市については、盛り場、ディズニーランド、オリンピック競技場、米軍基地などの空間を、メディアについては、印刷、電話、映画、テレビなどを具体的に取り上げていく。具体的な都市やメディアを素材として取り上げながら、それらにどう社会的にアプローチしていくべきなのかを学ぶ。

### NPOと市民社会(3年前期) \\PICK UP!\\

人々の社会的必要を満たすモノやサービスは、営利企業を中心とする市場経済によってのみ提供されているわけではない。多様な行政サービスを生み出す政府も、家事やケア等を行っている家族も、そして地域や特定の社会的属性を持った人々のニーズを満たすボランティアやNPO、協同組合などの非営利・協同セクターも、人々がよりよく生き、生活する上で重要な存在と言える。

本講義では、多様なニーズや特性を持った人々が、それぞれの特性を活かして生きていける共生社会を目指す上で、市場経済や行政、家族、そして非営利・協同セクターがいかなるメリットとデメリットを持っているかを理解し、上記セクター間のいかなる組み合わせや融合がそうした社会の構築に資するものとなり得るのか、NPO活動の事例分析を端緒として検討していく。



## Ⅱ類(資源)：地域をとりまく歴史・文化、自然など地域固有の資源のあり方と保全管理を学ぶ

- ・Ⅱ類(資源)の科目では、歴史・文化、自然など地域固有の資源を見出し、その特質を支えてきた地域の営みとの関係を理解し、それらを保全し磨き上げるための制度や方策、技術を学びます。
- ・基礎期には5科目を開講し、必修1科目の他に2科目4単位以上を履修条件としています。
- ・発展期には7科目を開講します。各自の興味・関心や希望進路に応じて履修してください。

### 【基礎期】

1年後期開講：地域資源論(必修)／博物館概論

2年前期開講：保全生態学概論／民俗学概論／都市建築史

#### 地域資源論(1年後期・必修)

\\PICK UP!//

地域のまちづくりや観光を支える資源には様々なものがある。気候や地形・地質、動植物、そして各時代の政治や経済の状況などと地域資源との関係性を捉えるとともに、これらの変化と合わせて人々の生活や生業が移り変わる中で地域資源がどのように変容・変質してきたのかを具体的に捉えながら、「地域性」をもたらす様々な要因と、それを具体的に表す事象との関係について理解を深める。

また、地域資源の継承が求められている社会的背景や各地での取り組みの動向についても学ぶとともに、関係する制度・事業についての基礎知識を習得する。

#### 民俗学概論(2年前期)

\\PICK UP!//

私たちの周りには、地域や家によって受け継がれてきた様々な民俗文化がある。こうした、暮らしに根ざした身近な文化に焦点をあてることで、自らの知見と照らし合わせつつ、日本人が持つ価値観とその方向性について考える。それが、民俗学が内省の学とも呼ばれる所以である。

民俗学の概説を通じて、その基礎的な知識を得るとともに、基本的な民俗の捉え方を養う。先人たちがどのような生活をおくり、どのような「生きがい」を抱いてきたのかを認識し、ひいては日本人の考え方や行動のあり方を見つめ直す。

### 【発展期】

2年後期開講：風景計画論／レクリエーション計画論／地域文化創造論／地域遺産論

3年以降開講：自然/環境保護行政概論／文化行政・文化財行政概論／世界遺産論

#### 風景計画論(2年後期)

\\PICK UP!//

風景あるいは景観を計画・設計するという観点に立脚し、人間を取り巻く視覚像である風景を分析的に把握し、予測、評価する方法について学ぶ。風景・景観認識のメカニズム、そして分析から評価、計画に至るプロセスや手法に関する講義を通して、多様かつ複合的な視点をいかに整理し、客観的な分析と評価の対象とするかについて学ぶ。また、風景計画・景観設計の実態に触れながら、人々の生活と風景との関わりについても理解する。

風景の計画、形成に当たっては踏まえるべき原則と、風景に対する時代の志向や価値観、そして地域ならではの環境との関わり方に対する配慮が必要である。地域の歴史的、社会的、文化的背景と、形成される風景との関係について考える。

#### 文化行政・文化財行政概論(3年前期)

\\PICK UP!//

本講義では、文化財を大きく有形の文化財(不動産、動産)と無形の文化財に大別しながらそれぞれの成り立ちと変遷、保護の仕組みについて概観する。

また、破壊から守るために社会の仕組みとは切り離されて保護されてきた有形文化財の現在の課題とは何か、社会変容の中で消えゆく人のわざや慣習はどのように残し得るか、文化的景観や民俗文化財等、保護の対象が人々の生活に近いものとなるほど、有形と無形、不動産と動産を截然とは区分できないのは何故か等、守るものの特質や性質によって異なる保護の考え方を理解し、比較を通しながら文化財と地域社会との関係を考える。

## Ⅲ類(政策・計画)：地域の空間構造を踏まえた将来像の構想や働きかけに有効な具体的政策及び計画を学ぶ

- ・Ⅲ類(政策・計画)の科目では、公共政策や工学等のまちづくりに関連の深い分野を中心に、地域の将来像を構想し実装する政策・計画に関する知識や能力を身につけます。
- ・基礎期には5科目を開講し、必修1科目の他に2科目4単位以上を履修条件としています。
- ・発展期には9科目を開講します。各自の興味・関心や希望進路に応じて履修してください。

### 【基礎期】

1年後期開講：公共政策概論(必修)

2年前期開講：地方自治概論／地域デザイン論／国土・都市計画論／都市と地域の交通

#### 公共政策概論(1年後期・必修)

\\PICK UP!//

地域をとりまく様々な政策の中でも、国や地方自治体における公共政策の根幹を理解できるよう、体系や制度についてまず学んでいく。一方で国民・住民に主権があり、政策形成にも主権者の多様な参加が試みられている。そこで、実際の公共政策形成プロセスや制度の運用、地域づくりにおいて、また主権者自体が試みる政策形成や事業展開の事例も順にみていく。そうしたさまざまな先進事例を検討することの中から、グローバル化の時代も背景とした、これからの公共政策のあり方について考える。

#### 地域デザイン論(2年前期)

\\PICK UP!//

有限な地域空間において、住民と観光客をはじめとする多様な主体の幸せな共存を目指して、まずは、建物から敷地、街区、地区、都市、広域までの多層的なスケールで空間的・社会的デザインとプロセスデザインを考えるための基本的な見方を学ぶ。

そして、地域を取り巻く環境も人々の意識も激動期にある現代において、行政の縦割りや広域化等の弊害を超えて地に足の着いた地域主体のデザインを行うためのアプローチと技術の基礎を習得する。

### 【発展期】

2年後期開講：行財政概論／まちづくり論／農山漁村論

3年以降開講：住民参加と合意形成／都市保全論／交通計画／地域減災論／リノベーション論／アートと地域振興

#### 農山漁村論(2年後期)

\\PICK UP!//

農山村の地域構造の原型ともいえる「家と集落(むら)の関係」を理解し、農山村地域が今日に至るまで直面してきた社会的諸問題を考えながら、その解決手段として試みられてきた地域づくりの展開を探る。

また、積極的に地域づくりを進める上で不可欠な視点である「地域経済」に焦点を当て、地域資源をもとにした産業基盤(とりわけ農山村地域の主要産業である第1次産業)への理解を深め、グローバル化に直面する中での地場産業の変化と課題、また対応する試みを学ぶ。漁村についても、適宜、関連する論点を扱う。

#### 地域減災論(3年前期)

\\PICK UP!//

日本は自然災害の多い地域であり、地震、津波、火山噴火、台風、豪雨などによって大きな被害が発生している。このような自然災害から市民の生活を守り安心して暮らしていけるように、日常時から防災・減災まちづくりを推進し進めることは重要である。また、このような取り組みは、一般市街地だけではなく、多くの観光客が滞在している観光地においても同様に重要である。

地域で求められる防災・減災・復興まちづくりに関して、防災・減災まちづくりの仕組み、一般市街地と観光地における防災活動、災害を引き起こす自然現象と発生する被害、過去の代表的な自然災害と復興まちづくり、新たな取り組みとしての地域協働型の事前復興まちづくり、たまプラーザキャンパスと防災・減災まちづくり、について学ぶ。





## Ⅳ類(交流・産業)：地域を主体とした域内外の交流の在り方とその関連産業がもたらす経済効果を学ぶ

- ・Ⅳ類(交流・産業)の科目では、地域を主体とした域内外の交流のあり方や、そうした交流を通じて地域に経済効果をもたらす具体的な方策及び関連産業の枠組みについて学びます。
- ・基礎期には4科目を開講し、必修1科目の他に2科目4単位以上を履修条件としています。
- ・発展期には10科目を開講します。各自の興味・関心や希望進路に応じて履修してください。

### 【基礎期】

- 1年後期開講：観光学概論(必修)／観光マーケティング
- 2年前期開講：観光政策・計画論／観光事業論

#### 観光学概論(1年後期・必修)

\\PICK UP!//

観光の歴史的発展を概観して時代とともに観光をめぐる環境や状況が変遷することを理解する。その上で今日の観光という事象を取り巻く様々な主体について、観光客の視点に加え、観光事業者や観光推進組織、行政など観光客を受け入れる地域側の視点、さらには観光政策や観光関連法規、観光計画といった政策実現の視点、そして国際的な観光を俯瞰する視点から広く見渡すことによって、今後4年間の観光まちづくりに関する学びの基礎を身につける。

#### 観光事業論(2年前期)

\\PICK UP!//

観光産業は交通、宿泊、旅行会社、飲食、テーマパークなど多様な業種から構成され、世界中で約3億人が従事し、各事業は雇用創出など地域経済にも大きな貢献をしている。昨今、デジタルエコノミーの進展やSDGsへの対応など、社会的な変化や要請を背景に消費者が観光、旅行に求めるニーズも変化し、観光事業には事業変革による価値創出が求められている。  
このような背景のもと、観光事業別にその経営の特徴や課題を理解し、中長期的な視点からあるべき姿を把握する。観光事業の役割や意義を理解し、地域の持続的な発展のためにどのような貢献ができるか考える力を身につける。

### 【発展期】

- 2年後期開講：観光行動論／ホスピタリティ・マネジメント論／旅行産業論／宿泊産業論／地域の観光情報メディア
- 3年以降開講：観光地経営論／観光食マネジメント論／世界の観光政策／観光経済論／田園回帰論

#### 地域の観光情報メディア(2年後期) \\PICK UP!//

メディアの特性を制作プロセスと併せて学び、学生に身近なSNSが地域の観光情報メディアとしてどのように活用されているかについて議論する。  
そして、地域における観光戦略の要としての情報発信の実態を把握し、課題を抽出し、情報発信者の立場に立って情報発信のあるべき姿を学ぶ。同時に、自治体のアンテナショップなどリアルな場が担っている役割や今後の可能性についても学ぶ。

#### 田園回帰論(3年前期)

\\PICK UP!//

都市から農山漁村への移住という物理的移動だけでなく、都市住民が地方へ向けるまなざしの変化を含め「田園回帰」と呼ばれるようになってきた。一方、日本全体の人口減を受けて始まった地方創生施策の中で、都会からの移住者獲得に動く自治体が増えている。これらの田園回帰の動きと、プロセスとしての「関係人口」と呼ばれる多様な関わり方や関わりしるづくりについて全国の取組みから学び、特に「なりわい」「住まい」「コミュニティ」という具体的な課題を通じ、物事を多面的に考える力を養う。

## トピックス科目：観光まちづくりの実践的な話題にふれる

トピックス科目は、観光まちづくりの現場や実務に近い分野で活躍している専門家を講師として招き、実践的な話題に触れる科目です。学習意欲の向上や将来の進路を考える契機として活用してください。

- 1年次開講：経営学概論
- 2年次開講：地域ブランディング論／運輸・観光実践論／ソーシャル・イノベーション
- 3年次開講：観光まちづくりインターンシップ(通年)／不動産投資論／観光危機管理論  
文化芸術政策論

## 関連科目：観光まちづくりに関連するより幅広い分野の学び

観光まちづくりを学ぶ上で関連する他の専門分野や、本学独自の神道文化と地域形成について理解を深めるための科目です。また、2022年の博物館法改正も念頭においた学芸員の資格取得を目指す博物館学芸員課程も設けています。

1年次開講：哲学・倫理学／地理学概論

2年次開講：神道と環境Ⅰ／神社ネットワーク論Ⅰ／地域と都市の経済／観光心理学

### 【博物館学芸員課程の科目】

- ・博物館学芸員課程の科目は博物館法施行規則第1条によって定められており、博物館の学芸員資格取得のために必要な知識や技術を習得するため、以下10科目19単位を全て修得する必要があります。
- ・「博物館概論」以外の9科目は、卒業要件に含めない科目です。
- ・受講に際しては、所定の選考に通過し、資格課程費を納入する必要があります。

1年次開講：博物館概論 ※本学部では展開科目基礎(Ⅱ類・資源)に位置付けています。

2年次開講：博物館資料論／生涯学習概論／博物館教育論／博物館資料保存論

3年次開講：博物館展示論／博物館情報・メディア論／博物館経営論／博物館実習A

4年次開講：博物館実習B(1単位)

## 履修モデル

観光まちづくり学部では、観光まちづくりの体系的な基礎学習を基盤とした上で、学生の興味・関心や希望する進路に応じた履修が組めるように、以下の6つの履修モデルを作成しています。

これは、いずれかに合致させなければならないということではありません。ひとり一人の学生が、自身の興味・関心や進路を視野に入れて、主体的に科目を選択することが、なによりも大切です。

履修モデルA：社会や生活の調査・分析から観光まちづくりを学びたい学生 p.20

履修モデルB：歴史・文化の保存と活用から観光まちづくりを学びたい学生 p.21

履修モデルC：自然・環境の保護と利用から観光まちづくりを学びたい学生 p.22

履修モデルD：公共政策から観光まちづくりを学びたい学生 p.23

履修モデルE：空間づくり・計画づくりから観光まちづくりを学びたい学生 p.24

履修モデルF：観光関連産業での事業・経営から観光まちづくりを学びたい学生 p.25





履修モデル

A

## 社会や生活の調査・分析から 観光まちづくりを学びたい学生

- ◆展開科目Ⅰ類(社会)、メソッド科目、展開科目Ⅲ類(政策・計画)を積極的に履修します。
- ◆地域を取り巻く社会や生活の分析と計画や政策の分析・策定・実行のための能力を身につけます。
- ◆進路として、公務員、コンサルタント、ジャーナリストや、NPO、NGO、出版、放送、広告、商社、IT、金融など幅広い分野で活躍する人材を想定しています。

太字：必修科目、( ):単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ 日本文化を知る コンピュータと情報Ⅰ 科学的思考法	英語Ⅲ・Ⅳ 國學院の学び 情報科学入門 政治と社会参加(NPO)		
導入	社会学概論 まちづくりと観光			
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	データサイエンス 質的調査法	プロダクトデザイン(地域と杉) 多変量解析	
演習	導入ゼミナール	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4) 基礎ゼミナールB	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)
展開・基礎	[Ⅰ]文化社会学 コミュニケーション論 [Ⅱ]地域資源論 博物館概論 [Ⅲ]公共政策概論 [Ⅳ]観光学概論 観光マーケティング	[Ⅰ]地域と環境の社会学 グローバリゼーション論 [Ⅱ]都市建築史 民俗学概論 保全生態学概論 [Ⅲ]地域デザイン論 都市と地域の交通 [Ⅳ]観光事業論	[Ⅰ]ジェンダーの社会学 NPOと市民社会 観光社会学 文化人類学 [Ⅱ]地域文化創造論 風景計画論 文化行政・文化財行政概論 [Ⅲ]まちづくり論 農山漁村論 住民参加と合意形成 地域減災論 リノベーション論 [Ⅳ]地域の観光情報メディア	
展開・発展		[Ⅰ]都市とメディアの社会学		
トピックス		ソーシャル・イノベーション		
関連	哲学・倫理学			
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計124単位

履修モデル

B

## 歴史・文化の保存と活用から 観光まちづくりを学びたい学生

- ◆展開科目Ⅱ類(資源)の科目を中心に、歴史・文化を主な対象として扱う科目を各類から積極的に履修し、必要に応じて博物館学芸員課程を履修します。
- ◆歴史・文化の保存と活用につなげていくことを目指して、地域を取り巻く社会の分析、地域の空間構造・資源の把握、計画や政策の分析・策定・実行、地域主体の交流・産業の創出のための能力をバランス良く身につけます。
- ◆進路として、歴史・文化の保存と活用に直接関与する博物館等の学芸員や職員、公務員、歴史・文化を有する地域の観光協会・DMO・まちづくり組織の職員、歴史・文化を活用した宿泊業や旅行業の分野で活躍する人材、上記に関する情報を集め、編集し、発信する出版、放送、広告等の分野で活躍する人材を想定しています。

太字：必修科目、( ):単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ 國學院の学び 日本文化を知る コンピュータと情報Ⅰ	英語Ⅲ・Ⅳ Japan Studies 地球環境と人間 比較文化論Ⅰ		
導入	社会学概論 まちづくりと観光			
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	プロダクトデザイン(地域と杉)	質的調査法	
演習	導入ゼミナール 基礎ゼミナールA	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4)	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)
展開・基礎	[Ⅰ]文化社会学 コミュニケーション論 [Ⅱ]地域資源論 博物館概論 [Ⅲ]公共政策概論 [Ⅳ]観光学概論 観光マーケティング	[Ⅰ]地域と環境の社会学 グローバリゼーション論 [Ⅱ]都市建築史 民俗学概論 [Ⅲ]地方自治概論 地域デザイン論 [Ⅳ]観光政策・計画論 観光事業論		
展開・発展		[Ⅱ]地域遺産論 風景計画論 [Ⅲ]まちづくり論 [Ⅳ]地域の観光情報メディア	[Ⅰ]ジェンダーの社会学 文化人類学 [Ⅱ]地域文化創造論 文化行政・文化財行政概論 世界遺産論 [Ⅲ]行財政概論 都市保全論 リノベーション論 アートと地域振興 [Ⅳ]観光地経営論 観光食マネジメント論 世界の観光政策 田園回帰論	
トピックス			文化芸術政策論	
関連			博物館学芸員課程(17)	
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計124単位(博物館学芸員課程の単位は含まない)



履修モデル

C

自然・環境の保護と利用から  
観光まちづくりを学びたい学生

- ◆展開科目からⅡ類(資源)の科目を中心に、自然・環境を主な対象として扱う科目を各類から積極的に履修し、関連科目も履修します。
- ◆自然・環境の保護と利用につなげていくことを目指して、地域を取り巻く社会の分析、地域の空間構造・資源の把握、計画や政策の分析・策定・実行、地域主体の交流・産業の創出のための能力をバランス良く身につけます。
- ◆進路として、自然・環境の保護と利用に直接関与する公務員や環境関連組織、観光協会・DMO・まちづくり組織の職員、自然・環境を利用した宿泊業や旅行業の分野で活躍する人材、上記に関する情報を集め、編集し、発信する出版、放送、広告等の分野で活躍する人材を想定しています。

太字：必修科目、( ):単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ 國學院の学び 日本文化を知る コンピュータと情報Ⅰ 科学的思考法	英語Ⅲ・Ⅳ Japan Studies 地球環境と人間		
導入	社会学概論 まちづくりと観光			
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	質的調査法	地理空間情報分析	
演習	導入ゼミナール	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4) 基礎ゼミナールB	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)
展開・基礎	[Ⅰ]文化社会学 コミュニケーション論 [Ⅱ]地域資源論 博物館概論 [Ⅲ]公共政策概論 [Ⅳ]観光学概論 観光マーケティング	[Ⅰ]地域と環境の社会学 グローバル化論 [Ⅱ]民俗学概論 保全生態学概論 [Ⅲ]国土・都市計画論 都市と地域の交通 [Ⅳ]観光政策・計画論		
展開・発展		[Ⅱ]風景計画論 レクリエーション 計画論 [Ⅲ]行財政概論 まちづくり論	[Ⅰ]都市とメディアの社会学 観光社会学 [Ⅱ]地域遺産論 文化行政・文化財行政概論 自然/環境保護行政概論 [Ⅲ]農山漁村論 住民参加と合意形成 地域減災論 [Ⅳ]地域の観光情報メディア 観光地経営論 観光食マネジメント論 観光経済論 田園回帰論	
トピックス			観光まちづくりインターンシップ	
関連	地理学概論	神社ネットワーク論Ⅰ		
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計124単位

履修モデル

D

公共政策から  
観光まちづくりを学びたい学生

- ◆展開科目Ⅲ類(政策・計画)の科目を特に多く履修しながら、メソッド科目、トピックス科目を多く履修し、政策や計画の分析・策定・実行のための能力を身につけます。
- ◆特に、3年次以降は、トピックス科目の履修を契機に実務的なものの見方も兼ね備えていきます。
- ◆進路として、公務員、コンサルタント、NPO、NGO等の職員や、出版、放送、広告の分野で活躍する人材を想定しています。

太字：必修科目、( ):単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ コンピュータと情報Ⅰ 法学(日本国憲法) 行政と市民生活 経済理論入門	英語Ⅲ・Ⅳ 國學院の学び 日本文化を知る		
導入	社会学概論 まちづくりと観光			
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	パブリックデザイン(地域と公共空間) 質的調査法	多変量解析	
演習	導入ゼミナール 基礎ゼミナールA	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4)	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)
展開・基礎	[Ⅰ]文化社会学 [Ⅱ]地域資源論 博物館概論 [Ⅲ]公共政策概論 [Ⅳ]観光学概論 観光マーケティング	[Ⅰ]地域と環境の社会学 グローバル化論 [Ⅱ]都市建築史 [Ⅲ]地方自治概論 国土・都市計画論 都市と地域の交通 [Ⅳ]観光政策・計画論		
展開・発展		[Ⅰ]ジェンダーの社会学 [Ⅱ]風景計画論 [Ⅲ]行財政概論 農山漁村論	[Ⅰ]コミュニティ論 [Ⅱ]地域文化創造論 文化行政・文化財行政概論 [Ⅲ]まちづくり論 都市保全論 住民参加と合意形成 地域減災論 交通計画 アートと地域振興 [Ⅳ]地域の観光情報メディア 世界の観光政策 田園回帰論	
トピックス			文化芸術政策論 観光まちづくりインターンシップ	
関連		地域と都市の経済		
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計124単位



履修モデル

E

## 空間づくり・計画づくりから 観光まちづくりを学びたい学生

- ◆メソッド科目とトピックス科目を積極的に履修しながら、展開科目Ⅱ類(資源)とⅢ類(政策・計画)の科目、関連科目も履修します。
- ◆空間づくりや計画づくりにつなげていくことを目指して、地域を取り巻く社会の分析、地域の空間構造・資源の把握、計画や政策の分析・策定・実行のための能力をバランス良く身につけます。
- ◆2年次以降、トピックス科目の履修を契機に実務的なものの見方を兼ね備えていきます。
- ◆進路として、宿泊業、建設業、不動産業、運輸交通業の分野や、観光協会・DMO、まちづくり組織の職員、公務員として活躍する人材を想定しています。

太字：必修科目、( ):単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ コンピュータと情報Ⅰ 情報科学入門 科学的思考法	英語Ⅲ・Ⅳ 地球環境と人間 法と社会参加 日本の経済		
導入	社会学概論 まちづくりと観光			
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎 プログラミングと数学基礎	データサイエンス	パブリックデザイン (地域と公共空間) 地理空間情報分析	
演習	導入ゼミナール	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4) 基礎ゼミナールB	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)
展開・基礎	[Ⅰ]コミュニケーション論 [Ⅱ]地域資源論 博物館概論 [Ⅲ]公共政策概論 [Ⅳ]観光学概論 観光マーケティング	[Ⅰ]グローバリゼーション論 [Ⅱ]都市建築史 保全生態学概論 [Ⅲ]地域デザイン論 国土・都市計画論 都市と地域の交通 [Ⅳ]観光政策・計画論		
展開・発展		[Ⅱ]風景計画論 [Ⅳ]観光行動論 宿泊産業論	[Ⅰ]都市とメディアの社会学 [Ⅱ]レクリエーション計画論 自然/環境保護行政概論 世界遺産論 [Ⅲ]まちづくり論 都市保全論 交通計画 地域防災論 リノベーション論 [Ⅳ]観光地経営論	
トピックス		地域ブランディング論	不動産投資論 観光危機管理論	
関連	地理学概論		神社ネットワーク論Ⅰ	
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計124単位

履修モデル

F

## 観光関連産業での事業・経営から 観光まちづくりを学びたい学生

- ◆展開科目Ⅳ類(交流・産業)の科目を積極的に履修し、地域主体の交流・産業を創出するための能力を身につけます。
- ◆1年次からトピックス科目を履修し、実務的なものの見方を兼ね備えていきます。2年次には関連科目も履修します。
- ◆進路として、宿泊業、旅行業、地域の観光協会・DMO等の観光産業及び、運輸交通業、起業、商社、IT、金融、広告等の観光関連部門で活躍する人材を想定しています。

太字：必修科目、( ):単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ 日本文化を知る コンピュータと情報Ⅰ 経済理論入門	英語Ⅲ・Ⅳ Japan Studies 情報科学入門 経済経営数学入門		
導入	社会学概論 まちづくりと観光			
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	質的調査法		
演習	導入ゼミナール 基礎ゼミナールA	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4)	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)
展開・基礎	[Ⅰ]コミュニケーション論 [Ⅱ]地域資源論 博物館概論 [Ⅲ]公共政策概論 [Ⅳ]観光学概論 観光マーケティング	[Ⅰ]グローバリゼーション論 [Ⅱ]保全生態学概論 [Ⅲ]地域デザイン論 国土・都市計画論 都市と地域の交通 [Ⅳ]観光政策・計画論 観光事業論		
展開・発展		[Ⅳ]観光行動論 ホスピタリティ・マネジメント論 旅行産業論	[Ⅰ]都市とメディアの社会学 観光社会学 [Ⅱ]地域遺産論 地域文化創造論 [Ⅲ]農山漁村論 地域防災論 アートと地域振興 [Ⅳ]宿泊産業論 観光地経営論 観光食マネジメント論 世界の観光政策 観光経済論 田園回帰論	
トピックス	経営学概論		運輸・観光実践論 観光まちづくりインターンシップ	
関連		地域と都市の経済 観光心理学		
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計124単位



## 行政と市民が 一緒に進める 新しいまちづくり

とうない ゆゆ  
**東内 友結** さん  
観光まちづくり学部 1年



### 被災物が物語る津波の恐ろしさに愕然



震災遺構で学ぶ

オープンキャンパスでの説明会で1年からゼミ(フィールドワーク)があるのを知ったことが國學院大学の観光まちづくり学部に着かされた理由の1つでした。ですから入学したときからゼミをととても楽しみにしていました。

1年で受ける基礎ゼミAのチーム1はコロナ禍のため行けず、チーム2だけの参加になりました。行ったのは岩手県陸前高田市です。東日本大震災が起きたのは私が小学校1年生のとき。津波が襲ってくる映像は記憶に残っています。あれから10年以上経ち、どうなっているのかを知りたいと思い、このゼミを志望しました。

東日本大震災津波伝承館で見た被災物は想像を絶するものでした。ベコベコになった道路標識、つぶれた消防車等々、どの展示品も津波の恐ろしさを物語っています。当時の人々の恐怖や悲しさを思うと、胸が痛くなりました。

### まちづくりの第一歩は地域の魅力や 特性の発見と教えてくれた 「まちづくりと観光」

必修の科目に「まちづくりと観光」があります。観光について知識がないまま入学してきた私にとって、まちづくりの基礎から学ぶことができました。この授業で一番印象に残ったのが、その地域の魅力や特性を見つけることがまちづくりの第一歩だということ。埼玉の魅力を見つけようと思わせてくれた授業です。



また、市職員の方には、復興した今のまちを案内していただきました。行政主導で新しいまちづくりを推進しているとばかり思っていたのですが、実はそうではなく、市民と話し合いを重ねながらまちづくりを進めているとの話は意外でした。自分たちのまちは自分たちみんなで作りたいという思いを動かしているのは、「陸前高田が好き」という郷土愛だと感じました。

### 地元・埼玉の地方創生の課題に気づく

私は大学に入る前から地方創生に興味を持っていました。地方創生は公務員の仕事だと思っていたので、卒業後は公務員になりたいと考えていました。しかし今回、陸前高田に行き、地方創生に関わるのは公務員だけではないことを知りました。

私にとって創生したい地方とは今住んでいる埼玉です。海もなく、魅力がないとよく言われますが、魅力はたくさんあるはず。それを見つけて発信したい。また、埼玉は災害が少ないためか、防災対策が十分ではありませんし、私自身、あまり深い思いを持っていませんでした。しかし、今回のゼミで自然災害への備えがどれほど大切かを痛感したので、埼玉の地方創生の課題の1つに防災対策もあると気づかされました。

春休みにも2つの基礎ゼミBを取っています。チーム1は静岡県でリノベーションした空き家に宿泊するゼミ、チーム2は広島県の宮島でまちづくりについて学ぶゼミです。こうした普段は行けない場所に行けるのも、ゼミの良さだと思います。

## フィールドワークでの 体験を通して 興味を掘り下げる

### 仲間と調査結果をまとめる作業が楽しい

子どもの頃から観光客としていろいろな地を訪れましたが、今度は地域住民や生産者側からその地を捉えてみたいと思い、観光まちづくり学部に進学しました。基礎ゼミAも地域住民の視点からまちづくりを見ようと、チーム1は岩手県陸前高田市で防災と新しいまちづくりについて、チーム2は神奈川県鎌倉市で地図から学ぶ内容を選びました。

陸前高田は2011年3月11日の東日本大震災で津波による大きな被害を受けたところです。テレビや新聞で震災からの復興について時々報道されますが、実際どういう状況なのか自分の目で確かめることも目的の1つでした。

東日本大震災津波伝承館では学芸員からの説明を聞きながら展示物を見てまわりました。学芸員の1つひとつの言葉が重く、被災の甚大さを知るとともに、防災の大切さを痛感しました。また、市役所の担当者に、新たに造った堤防やかさ上げた市街地、高台につくられた新しいまちなどを案内していただきました。仮に、新しい堤防を越えるような津波が襲ってきたとしても被害を最小限にとどめるため、海に近い場所に住民は住まないようにしたという話を聞き、経験を教訓にして、安心できるまちをつくるという強い意志を感じました。

最近の観光の大きな話題にインバウンドの増加があります。しかし、本当にそうなのだろうか疑問を持ち、ゼミ



陸前高田市の博物館にて被災資料の保存を学ぶ

### 陸前高田に行ったことがきっかけで「地球環境と人間」を受講

講義型の選択科目に「地球環境と人間」があります。この授業を受けようと思ったのはゼミで陸前高田に行ったのがきっかけでした。もし地震が起こったら助けが来るまで安全に身を守るにはどうしたらよいか、自分の寝室の防災対策は十分かといったことを学びます。南海トラフ地震が確実に来るといわれているだけに、知っておくと役に立つ話をたくさん聞けました。

しぶや かずき  
**渋谷 和希** さん  
観光まちづくり学部 1年



参加者と一緒に外国人にも人気の鎌倉市の4つの通りの人流を調べました。

鶴岡八幡宮参道の若宮大路の南路と北路、鎌倉駅東口から鶴岡八幡宮へ延びる小町通り、小町通りとは反対側に位置する御成通りで定点観測しました。外国人観光客はマスクが言うほど多くないこと、特に若宮大路の南路は外国人だけでなく日本人観光客も少なく、通行人のほとんどは地域住民であることがわかりました。今回得た結果をグラフにし、ゼミ仲間とともにレポートにまとめたのですが、その共同作業も楽しかったです。



鎌倉の人気通りで人流を調べる

### 視野が広がるのを実感

大学では自分の興味のあることを主体的に学べる点が高校とは大きく異なります。特にゼミは自らの体験を通して興味をより掘り下げることができます。また、思わぬ収穫があるのもゼミの良さです。陸前高田に行き、まちづくりへの関心がいっそう増したし、鎌倉での調査は自分が抱いた疑問を自らが行動することで解決できることを知りました。

難しい内容の授業もありますが、自分の知識を増やすために役立つと思って勉強をしています。今は観光について多方面からさまざまなことを学べて、視野がどんどん広がっているのを感じています。





さかきばら ゆうた  
榊原 悠太 さん

観光まちづくり学部 1年

## 隠岐のホテル業務に携わりながら 島内外の人々とも交流。 豊かな自然も満喫

### 想像以上に体を使う過酷なホテル業務

直感的に「面白そう!」と思ったのが隠岐諸島の一番大きい島・島後島でのホテル体験です。埼玉県出身の私にとって島根県に行く機会はそんなになく、しかも離島。参加しない手はありません。

今回8名がこのインターンに参加し、それぞれ異なるホテルに配属されました。私が行ったのはホテル海音里で、2週間業務に携わりました。

7時に起床し、9時から仕事開始。客室のリネンを取り替えたり、併設レストランの準備をしたりします。レストラン業務が終わる14時から17時までは休憩です。夕方から宿泊客のためにコース料理を配膳したり接客したりして21時ぐらいに終わり、ホテルの人たちの賄い料理を食べて風呂に入って部屋に戻る、というのが1日の大まかなスケジュールです。

ホテルという落ち着いた場所というイメージがありますが、その舞台裏は想像以上に過酷でした。特にリネンの仕事は滅茶苦茶筋肉を使います。また、調理場とお客様のテーブルがある場所までかなり距離があり、料理が冷めないように急いで運ばなくてはいけません。当初はクタクタになっていました。

楽しかったのは人々との交流です。レストランで観光客から出身を聞かれ、埼玉だと答えると、その人も埼玉から来た方でお互いビックリ。地元の常連客からも気軽に声を掛けられました。地元の人は若いインターン生が来るのを楽しみにされているようでした。

### 「地域をみつめ、地域を動かす」視点から考える隠岐のツーリズム

隠岐は地形や生態系の特有な場所で、世界からも注目を浴びています。私自身、不思議だなと思ったのが、北海道で見る植物と沖縄で見る植物が同じ場所に生息していたことです。

食べ物ごとにかく旨い! さざえはほぼ毎日食べていたし、賄い料理で岩ガキが出てきたときには思わず「がいなカキだけん(大きいカキだ)」と隠岐の方言で言い、ホテルのスタッフに大受けしました。

また、伝統の牛突きを見に行ったり、インターン仲間と3人で地元の漁師さんにイカ釣りに連れて行ってもらいました。他の2人は船酔いでダウンし、私だけが大量。自分たちだけではとても食べきれないので家族や祖父母に送ったら大喜びされました。

「地域をみつめ、地域を動かす」。これは観光まちづくり学部が掲げているメッセージです。「地域を動かす」という視点で今回のインターンを振り返ってみると、ホテルにはさらなるSNS活用を提案したいです。すぐそばにはとても美しい海があり、近くには急峻な山も滝もあります。ホテルの敷地内にはテニスコートが用意され体を動かすこともできます。ヤギを飼っていて草を食べる様子はとてもどこかです。こんなに魅力にあふれているのにホテルからの情報発信は十分とはいえません。ただ、観光客が隠岐の島に過剰に増加しすぎると自然環境に悪影響が及ぶ可能性があります。隠岐の島全体としては「観光学概論」の授業で学んだサステナブルツーリズムを目指したらよいのではないかと思います。

インターンは自分の世界を広げてくれます。アルバイトと違ってお金を得られる体験ではありませんが、それ以上の知識や教養を身につけられます。観光まちづくり学部の学生になったら絶対に行くことをおすすめします。



ホテル海音里から撮影した入り江



牛突きの様子



イカを釣り上げた様子

## 長野の旅館で女将を体験。 多忙の中で気配りを忘れない 女将はカッコいい!

ゆあさ あや 綾 さん

観光まちづくり学部 1年



### 食事の準備や部屋の掃除などを担当

大学の夏休みは高校に比べて長いので、リゾートバイトかインターンをやってみたいと思っていました。先生に相談したところ、インターンのほうが学びが多いと助言され、インターンに挑戦することにしました。

私が選んだインターンは旅館の女将体験をするというもの。行った先は長野駅から車で40、50分ほどのところにある山ノ内町の渋温泉で、石畳を歩く人の下駄の音が聞こえてくる情緒あふれる温泉場です。ここの温泉旅館の1つ「一乃湯果亭」でお盆を含む2週間インターンをしました。

旅館は4階建ての客室数10室ほどで、女将さんを含め4名できりもりしています。私は女将さんと一緒に、朝7時ぐらいから朝食の準備をします。お客様が食べ終わると片づけをして、お客様が帰られたあとは布団をたたんだり部屋の掃除をしたりと、次のお客様を迎える準備をします。午前中の仕事はそれで終わり、5時間ほどの中休みがあります。

そして17時から夜ごはんを配膳し、食後の片付けが終わる20時半ごろに1日の仕事は終了します。

インターンに行く前は、女将さんの仕事はお客様の出迎え・見送りをするぐらいのんびりしたものかなと思っていましたが、実際は全く違っていました。特にお盆の時期は満室状態が続き、女将さんは大忙しで1日中館内を走り回っていました。それでもお客様に少しでも楽しく過ごしていただけるよう、常に細かな気配りをしていたのはすごいし、カッコいいなと思いました。

### お客様にアップルパイのお店を紹介して感謝された

中休みなどを利用して、スノーモンキーで有名な地獄谷野猿公園に行ったり、美味しいものを食べに行ったりしました。小布施町のモンブランで有名なカフェは人が並んでいましたが、順番待ちした価値があるほど美味しかったです。

長野県はリンゴの一大産地です。ネットでアップルパイのお店を見つけ、食べに行きました。その翌日に配膳していたとき、お客様がふと「アップルパイが食べたい」と言われたので、そのお店を紹介しました。あとでお客様から「行ってきたわ。美味しいお店を教えてください」と感謝され、とても嬉しかったです。

困った思い出にお酒の味があります。渋温泉地区は地ビールが有名で、一乃湯果亭でも4種のビールを用意しています。お客様からその違いを聞かれたのですが、飲んだことのない私は返答できません。女将にどんな味が教えてもらい、それからは「こんな感じの味だと思います」と答えるようにしました。料理名やお皿の並べ方を必死に覚えたのもよい経験になりました。

また、器にほんの少し料理が残っているとき、その器を下げてよいかと迷いました。インターンから帰ってからは外食する際、お店の人が迷わないように、食べきり心掛けています。

授業で観光地の繁忙期と閑散期の話を聞いていました。お盆はまさに繁忙期。しかし、お盆が過ぎると予約の数が日に日に少なくなります。繁忙期・閑散期を実感したインターンでした。

今回のインターンは観光系ですが、今度の春休みには地域留学で1カ月宮崎県日南市に行き、まちづくりに参加する予定です。いろいろなところを見て体験して卒業後の進路を決めたいと思っています。



インターンの仲間3人



旅館の入口



会話の役に立ったアップルパイ



## 友人たちのおしゃべり、 学生アドバイザーの活動。 毎日が楽しさいっぱい

小野 陽代里さん 観光まちづくり学部 1年

小野さんの  
とある  
1日

- 7:30 起床
- 9:00 家を出る
- 10:45~授業
- 12:20 昼食
- 13:05~授業
- .....移動と寄り道
- 17:00~アルバイト
- 22:00 帰宅
- .....明日の準備
- 24:00 就寝

※学年表記は取材時(2023年1月)のもので



### 個性豊かな友だちが視野を広げてくれる

自宅から大学まで電車で1時間少しかかります。電車の中では、睡眠不足を補うために寝たり、課題提出のための資料をスマホで検索したり、好きな音楽を聴いたりして過ごしているので1時間の通学はそれほど大変とは感じません。

高校生活と大きく変わったのが朝の起床時間です。高校は9時から授業開始でしたから毎朝6時半に起床していました。ところが、大学では1限から始まる曜日があれば、2限、3限から始まる曜日もあります。1限がある日は朝6時に起きなければなりません、3限からの日は9時に起きても授業に間に合います。しばらくは生活のリズムをつくるのが大変でした。

大学生生活はとにかく毎日が楽しくて仕方ありません。特

に友だちとおしゃべり。面白い人、個性が強い人などさまざま、良い意味で価値感がバラバラなので大学生になって視野が広がった気がします。友だちは早くつくったほうがいいというのが実感です。私の場合、入学式の前日に行われたオリエンテーションのときに、隣の席に座っていた子と「出身はどこ？」などと言葉を交わしたのがきっかけで仲良くなりました。

お昼は、みんなと一緒に学食・ヒルトップをよく利用しています。話によると、全国学食ランキングで上位にランクインしているとか。おいしいし、コスパがいいし、メニューも豊富。地域の人もよく食べにきています。そんなオープンなどところも気に入っています。



課題は友だちと一緒に進める



気分転換に横浜のまちをお散歩



食べ放題は大学生の味方

### 横浜駅からみなとみらいまでの散歩が教えてくれるまちの魅力の新発見

高校生のとき訪れたオープンキャンパスで対応してくれた学生アドバイザーがとても親切で良い印象を持ちました。入学したら私も学生アドバイザーになりたいと応募し、面接を受けて採用されました。

オープンキャンパス当日、前年は説明を受ける立場だった私は、今度は学生アドバイザーとして受験生や保護者に観光まちづくり学部のいいところをたくさん伝えるようにしました。私がそうであったように、学生アドバイザーに良い印象を持ち、観光まちづくり学部に入りたいという受験生を一人でも増やしたいと思ったからです。

秋には東京の高校生団体のキャンパスツアーの案内もしました。また、2月の入学試験当日には門に立って受験生に挨拶をしたり、館内に誘導したりといった活動をする予定です。

大学生になってはまったことがあります。横浜駅から、

横浜の人気スポットみなとみらいまでの散歩です。地図を見ていたら、横浜駅からみなとみらいまで歩ける距離だと気づき、試しに歩いてみました。すると、見たことのない景色が目の前に現れたり、通ったことのない道があったりと発見の連続。みなとみらいは観光エリアだと思っていたら、大手企業のビルがたくさん建っていてビジネスのまちでもあることも知りました。すでに4回ほど歩いていますが、毎回違うルートを選び、今日はどんな発見があるのだろうとワクワクします。ひょっとしたらまちの魅力って身近なところにあるのかもしれない。

将来、どの方面に進むかはまだ決めていません。ホテルなどの宿泊業にも興味があるし、観光ガイドも面白そう。今は観光まちづくりについてたくさんの方の話を学びたい。その中から進みたい道が見えてくるのではないかなと思っています。

## 自由な一人暮らし だからこそ、自分で 生活をコントロール

山口 大翔さん 観光まちづくり学部 1年

山口さんの  
とある  
1日

- 6:00 起床
- .....弁当作り
- 8:00 家を出る
- 8:30 キャンパス到着
- .....課題・友人と会話
- 9:00~1・2限授業
- 12:20 昼食
- 13:05~3・4限授業
- .....課題・友人と会話
- 20:30 帰宅
- .....夜ごはん作り・食事
- .....課題・友人と通話
- 24:00 就寝



### 節約するための自炊、だけど食事づくりは楽しい

山形県天童市の出身で、今はたまプラーザ駅から電車で10分ほどの溝の口にある学生マンションに住んでいます。一人暮らしは初めてですが、父が自分のことは自分でしなさいという方針で、実家にいた頃から自分で部屋の掃除をするなどしていたため、日常生活で困ることはほとんどありません。

入学前、両親に料理の基本を教えてくださいました。それが今とても役立っています。というのは、自炊をしているからです。理由は節約のため。天童とは違ってこちらは外食の値段がびっくりするくらい高く、昼は学食で安くすませられたとしても、夜ごはんを毎日外食にすると仕送りがすぐに底をついてしまいます。

料理は全く苦にならないどころか、むしろ楽しんでやっています。料理はとてもクリエイティブな作業だし、自分の好きなものを食べられる良さもあります。栄養が偏らないように、栄養価が載っている献立アプリを見て1週間分の献立を決めています。

昼食は、前の晩のおかずの残り物を詰めるなどした手作り弁当です。友だちからは「えらいね」と感心されたり、「毎日代り映えしないね」と言われたりと反応はいろいろです。

デミオムライス  
鶏モモのハニーマスタード焼き  
マリネ



一人暮らしの自室



週に1、2回は食べるラーメン



ある日作った夕食

### 趣味のラーメン食べ歩き。友だちの間でラーメン好きの輪が拡大中

実は山形県はラーメンの消費量が全国でも常にトップクラスを誇っています。特に冷やしラーメンは夏のソルフードといっても過言ではないほどです。天童にいたときからラーメン好きでしたが、大学生になってからはラーメンの食べ歩きが一番の趣味になりました。

週1回、多いときには週3回、ラーメンの美味しい店を探して食べに行っています。時間のあるときはそのついでに周辺の観光をしています。食べた感想はTwitterに投稿。それを見て、連れて行ってほしいという友人が現れはじめました。この調子でラーメン好きの輪が広がっていったら嬉しいですね。

山形がラーメン県であることは全国的にはあまり知られていないようです。卒業後は実家の旅館を継ぐために天童に戻る予定ですが、ラーメンをキーワードに山形県や天童を盛り上げられたら面白いかも、と思っています。

朝遅くまで寝ていても、真夜中に帰ってきてても、勉強をしなくても叱る人はいません。自由なだけに、自分自身で生活が乱れないようにコントロールする必要があります。例えば、レポートの提出期限直前に風邪をひいたりしたら、ケアしてくれる家族はいないので自分で対応しなくてはなりません。それに加え、レポートを提出期限までにしかりと書き終えなくてはいけないとなると大変です。ですから、何が起ころうとも勉強に支障ないように提出期限のかなり前からコツコツとレポートをまとめるようにしています。

キャンパス周辺は自然豊かで、近所の保育園からは園児たちの楽しそうな声も聞こえてきます。田畑の多い天童からやってきた私にとって、とても新鮮で居心地の良い地域です。



## 奨学金について

國學院大學では、学生の学びをサポートするため、下記のような多様な奨学金を用意しています。申請条件、申請期間等は、変わることがありますので、ホームページで随時確認してください。

國學院大學学内奨学金(給費)ホームページ  
<https://www.kokugakuin.ac.jp/student/scholarship/p2>

### 学業奨励支援制度

- ◆ 國學院大學成績優秀者奨学制度

### 修学経済支援制度

- ◆ 大規模災害学費減免制度 ◆ 特例給費奨学金制度
- ◆ 教育ローン利子補給制度 ◆ 國學院大學留学生奨学金制度

### 海外活動支援制度

- ◆ 國學院大學短期留学グローバル・チャレンジ奨学金
- ◆ 國學院大學セメスター留学助成金 ◆ 國學院大學セメスター留学学習奨励金
- ◆ 國學院大學認定留学奨学金 ◆ 國學院大學認定留学天翔奨学金
- ◆ 國學院大學協定留学奨学金 ◆ 國學院大學「標」奨学金

### 進路支援制度

- ◆ 国家公務員採用総合職試験支援奨学金制度 ◆ 公認会計士試験支援奨学金制度

### 特定寄付による支援制度

- ◆ カピー奨学生 ◆ ふるさと奨学金制度

※学外奨学金 このほか、地方公共団体や民間団体の奨学金もあります。

## インターンシップ

國學院大學では、学生のうちに実際に企業や団体などで働いてみる就労体験、いわゆるインターンシップへの参加を推奨しています。

インターンシップの分野は、一般企業から行政機関、民間団体、さらには特定職種別にいたるまで多岐に渡ります。

例えば、主として以下のような形態のインターンシップがあります。

- ・ 公募型インターンシップ ・ 学内推薦型インターンシップ
- ・ マッチング型インターンシップ ・ 国際インターンシップ

相談は、たまプラーザ事務課キャリアサポート窓口(1号館1階)へ  
 [窓口受付開室時間] 9:00~12:45 13:45~16:40

※インターンシップの詳細は、今後別途案内していく予定です。

## 留学と国際交流



### 主な留学制度

異文化と触れ合い、世界の多様な文化や価値観、社会のあり方を知ることは、翻って地域を見つめる視野を限りなく広げてくれます。國學院大學では、世界に出て異文化に直接触れ、体験できる留学制度を充実させています。

- 夏期・春期短期留学 ————— 大学の授業を休まずに異文化を体験できます
- セメスター(1学期間)留学 ————— しっかりと語学力を身につけます
- 協定(1学期間~2学期間)留学 ————— 現地の学生と一緒に授業を受けます
- 認定(1学期間~2学期間)留学 ————— 協定校以外への長期留学も可能です

相談は、国際交流課(渋谷キャンパス6号館1階)へ  
 [開室時間] 9:00~12:50 13:50~17:00

詳しくはHPで



### 学内で国際交流

國學院大學では、学生がグローバルな視座を獲得するために、キャンパス内での国際交流やグローバル教育にも力を入れています。



### ○交換留学生との授業や交流

國學院大學では、海外協定校から毎年20人程度の交換留学生を受け入れています。日本語を学ぶ彼らと、日本に関する授業を英語で受講したり(Japan Studies)、生活サポートや各種イベント(International Coffee Hour等)を通じて共に交流しながら、多様性のある学びを経験することができます。詳しくは国際交流課に問い合わせてください。



### ○外国人研究者との学術交流

國學院大學では世界各国から研究者を招聘し、研究成果をあげています。また、外国から研究者を招いてのシンポジウムなども行っています。



## キャリアサポート



小学校から大学まで約16年間に及ぶ学校教育期間を終え、いよいよ社会へ羽ばたこうとする時、私たちは何を考えるのでしょうか。グローバル化、人工知能AIの発達、地域紛争など混沌とした世界情勢。これから飛び込もうとしている世界は、予測不能かつ日々めまぐるしい変化をみせています。そこにどう向き合っていけるか。すべては本人次第です。

世界に羽ばたこうとしている学生の背中を

そっと押してあげる、そのような支援を行っています。

### カリキュラムとの関わり

國學院大学の授業科目は、共通教育プログラムと専門教育科目に分けられます。共通教育プログラムでは教養を、専門教育科目では専門性を身に付けます。これに実践力を付与するものとしてキャリアサポートがあります。

### 資格と講座

國學院大学では、課程の中で「なりたい自分」を叶えるために、博物館学芸員養成課程、神職課程などを提供して自己実現をサポートしています。また、外部機関と連携した資格講座、検定などの受講相談やサポートも積極的に行っています。

(例えば、日商簿記検定3級対策講座、行政書士対策講座、宅地建物取引士対策講座、ファイナンシャルプランニング検定3級対策講座、税理士対策講座、宗教文化士(認定資格)など)

### 国家公務員採用総合職試験支援奨学金制度

国家公務員を目指す人を対象としたキャリア形成をサポートするための奨学金制度です。

奨学金額：本学指定の外部セミナー等の受講料及びセミナー教材費

対象：学部2年次後期に実施する選考試験を受験し、本学指定の学部セミナー等を指定した期間を通して受講できる者

キャリア形成サポートの詳細は、今後別途案内していく予定です。

相談は、たまプラーザ事務課キャリアサポート窓口(1号館1階)へ  
[窓口受付開室時間] 9:00~12:45 13:45~16:40

## 就職・進路の支援



一口に「就職」といっても、民間企業へ就職、行政機関に公務員として就職、資格を取って就職など、様々な形があります。

いずれにしても学生生活の間にしっかり準備して臨むことが重要です。特に民間企業への就職では、就職活動の早期化が進んでおり、入学後、学びを深める中で常に考え、早めに準備を進めておく必要があります。

國學院大学では、就職率だけではなく、就職後の学生一人一人の満足度を特に重視して支援をしています。学生の皆さんが希望する道に進み、社会で活躍し、より充実した人生を送るために、様々な就職支援を企画しています。

たまプラーザキャンパスの就職支援は、たまプラーザ事務課と渋谷キャンパスのキャリアサポート課とのダブル支援体制で行います。

例えば、就職関連の専門アドバイザーを迎えて、一般企業の就職対策をはじめ、公務員試験対策の個別面談や講座を開講します。また、学生一人一人の状況に適切に対応できるよう、業界分析を踏まえた就職支援の企画を検討・実施します。就職活動に取り組む学生を対象とした大学独自のセミナーや合同説明会を数多く開催していますので、積極的かつ気軽に参加してください。

### 主な就職支援企画

ガイダンス…就職ガイダンス 就活スタートアップガイダンス など

各種講座…自己分析&書類対策講座 たまプラー就職ゼミ など

模擬試験…SPI対策模擬試験 模擬面接指導会 など

個別指導…進路調査面談 就職アドバイザー など



### 公務員試験に向けたサポート

就職・進路先として公務員は根強い人気があります。ただ、公務員といっても総合職・一般職から専門職まで様々な職種があり、それぞれ異なる内容の採用試験が行われます。自分の希望をしっかりと考えたうえで、筆記試験、人物評価試験(面接、集団討論、小論文等)などの試験対策を早めに始めておく必要があります。そのため、國學院大学では、1・2年次から様々な支援プログラムを用意しています。例えば、以下のようなプログラムがあります。

- ・PCAP(実践的キャリア開発プログラム)
- ・K-PLAS国家公務員総合職コース など

就職・進路支援の詳細は、今後別途案内していく予定です。

相談は、たまプラーザ事務課キャリアサポート窓口(1号館1階)へ  
[窓口受付開室時間] 9:00~12:45 13:45~16:40



本学部での学びを通して身に付く、地域の課題解決に向けた分析力や提案力、そして未来に向けた構想力は、いわゆるまちづくりや観光業の分野だけでなく、さまざまな領域で活かせる能力です。

■ 就職に関連して次のような資格を目指すことができます  
(別途資格試験の受験が必要です)。

- ・総合旅行業務取扱管理者 ・国内旅行業務取扱管理者
- ・全国通訳案内士 ・地域通訳案内士 ・不動産鑑定士
- ・宅地建物取引士 ・技術士 他

- ・出版・放送
- ・広告代理店・PR会社
- ・商社・金融・IT産業
- ・建設業・不動産業
- ・都市開発 他

公共から地域を支える

- ・国家公務員
- ・地方公務員
- ・博物館等の学芸員\*・職員
- ・環境関連組織 他

※単位取得によって資格を得ることが可能



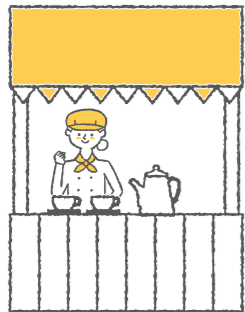
環境調査・  
保全関連組織



博物館  
学芸員・職員



Uターン  
Iターン起業



出版  
広告代理店

地域に根ざした事業を行う

- ・観光協会/観光地域づくり法人(DMO)
- ・NPO
- ・まちづくり組織
- ・Uターン・Iターン起業
- ・地域プランナー 他

\* Destination Management/Marketing Organization



航空・鉄道等  
交通事業者



観光協会  
/DMO



建設業  
不動産業  
都市開発



- ・コンサルタント
- ・宿泊業・旅行業
- ・観光施設運営者
- ・航空・鉄道等交通事業者 他



役所  
地方公務員



観光施設  
運営者



経済活動で地域と世界をつなぐ

観光の専門を活かす



## 地域マネジメント研究センターとは

観光まちづくり学部では、学部設置と同時に学部の附属組織として「地域マネジメント研究センター(Community Management Institute)」を開設しました。CMIを略称として使用しますので、ぜひ覚えておいてください。若木21の1階にスペースを設けています。CMIは、「観光まちづくり学部と地域・社会を結び、両者の発展に寄与し、観光を軸とした持続可能な魅力ある地域づくりに貢献する」ことを目的に、①研究推進・支援機能、②地域連携機能、③企画・運営機能の3つの機能を有します。

一つ目の研究推進・支援機能は、地方自治体や公的団体等との共同研究の推進や国内外の観光まちづくりに関する情報拠点として、情報収集と情報発信の役割を果たします。特に、本学部の学びに関する図書や観光まちづくりに関する図書・雑誌、さらに包括連携協定を結んだ地域の図書・資料などを集めた「観光まちづくりライブラリー」(右ページ参照)は、とてもユニークな空間です。「渋谷図書館」・「たまプラーザ図書館」とこの「観光まちづくりライブラリー」を上手に使って、観光まちづくりの学びを深めてください。

二つ目の地域連携機能は、本学と包括連携協定を結ぶ地域をはじめとした、魅力ある観光まちづくりを実践している地域や団体などと、学生・教員との交流を図る役割を果たします。現在、千葉県香取市佐原地区、岐阜県高山市、三重県鳥羽市、愛媛県内子町、大分県由布市との包括連携協定が結ばれています。他にもいくつかの地域との連携協議が始まっていますので、今後さらに多くの地域との連携が実現し、皆さんがその地域を学びのフィールドとして訪問するなど、交流を深める機会もあるはずです。

三つ目の企画・運営機能では、各地の観光まちづくりに携わっている専門家などを招いた「観光まちづくりフォーラム」や「観光まちづくりカフェ」を定期的で開催します。2022(令和4)年度に実施したイベントの様子を、P40-41で紹介しています。

さらに、各地の観光まちづくりの取り組みやトピックス、本学部の取り組みを紹介する機関誌『観光まちづくり』を年1回発行し、地域の方々とのコミュニケーションツールとして活用しています。

観光まちづくり学部の特色であるCMIに関心を持ち、「観光まちづくりライブラリー」に足を運んでみてください。



## 「観光まちづくりライブラリー」

たまプラーザキャンパス「若木21」1階・地域マネジメント研究センター(CMI)内にある「観光まちづくりライブラリー」(以下、ライブラリー)は、本学部における学びおよび観光まちづくりに関する専門図書・資料や情報を収集・保存し提供する専門ライブラリーです。司書資格を有する研究員をはじめとするスタッフが運営しています。

ライブラリーでは、本学と包括連携協定を結んだ地域のモニターやパネルなどによる紹介や観光まちづくりに関するおすすめ図書の展示紹介など、さまざまな情報発信を行っています。

館内の大きなテーブルや椅子、一部の書棚は、岐阜県高山市の地場産業である飛騨家具メーカーの製品です。無垢の木の温もりを感じながら、ゆったりとご利用ください。

### 1. 蔵書(コレクション)

蔵書は「渋谷図書館」・「たまプラーザ図書館」と連携して収集しています。

◆図書：学部教育に関わる基本書、全集、シラバス図書、学部教員図書、レファレンス資料(辞典・事典等)等(約3000冊を予定)

#### <蔵書分類>

学部カリキュラムの体系を踏まえた独自の「観光まちづくり分類(KM分類)」により、皆さんが興味のあるテーマに応じて図書や資料を探しやすいよう工夫しています。

KM分類	
KM0	國學院関係・教員図書
KM1	I類：社会
KM2	II類：資源
KM3	III類：政策・計画
KM4	IV類：交流・産業
KM5	メソッド
KM6	ガイドブック・地図
KM7	統計・調査計画資料



◆雑誌：学部カリキュラムに対応した各分野の専門雑誌・学術誌(約140誌を予定)、地域情報誌(ローカル誌)等

### 2. 利用案内

#### ◆利用対象

國學院大学の学生・教職員

#### ◆開館時間

平日10:00~17:00 通年開館(土日祝日は休館)

\*大学の夏休み、年末年始、春休み期間等は一部休館する場合あり

#### ◆資料の閲覧・貸出

○ライブラリー内での閲覧は自由

\*蔵書は、専用のOPACおよび大学図書館OPACで検索可能です

○貸出方法

\*貸出は原則、國學院大学教職員およびたまプラーザキャンパスの2学部(観光まちづくり学部、人間開発学部)の学生が対象

\*貸出冊数：同時5冊まで/人、貸出期間：1週間

\*受付カウンターで手続きをしてください

<貸出できない資料(館内閲覧のみ)>

禁帯出図書(辞典・事典、統計・白書等)、雑誌、新聞等

○その他

\*複写：ライブラリー内での複写は不可。複写する場合は貸出手続きをしてください

\*レファレンス・サービス：開館時間内に限り、受付カウンターで対応します

#### 【利用にあたっての留意事項】

\*個人PCの持ち込みは可

\*禁止事項：グループ(大人数)での利用、大声での会話、携帯電話での会話、食事(フタ付きの飲み物は持ち込み可)、館内・資料の撮影(但し、許諾を得た場合を除く)



## ライブラリー独自のイベントも開催！

ライブラリーでは、日本の鉄道開業150周年を記念して、2022(令和4)年10月14日~11月29日の期間、「鉄道と旅・観光・まちづくり」をテーマとしたイベントを開催しました。期間中には、ライブラリーとたまプラーザ図書館を会場とした鉄道に関する企画展示や「私が読みたい・読んでほしい鉄道本」の投票、記念講演会などを実施し、多くの学生の皆さんが参加しました。

今後も、皆さんが観光まちづくりへの興味を深めるきっかけとなるように、ライブラリーならではの企画展示やイベントの充実を図っていく予定です。ぜひご参加ください。



## 「観光まちづくりフォーラム」と「観光まちづくりカフェ」

CMIでは、地域の実践例や他の学術分野とのシナジーにより、「観光まちづくり」に結びつく幅広い学びを生み出すためのイベントとして、「観光まちづくりフォーラム」や「観光まちづくりカフェ」を開催しています。



「観光まちづくりフォーラム」は、本学部の考える観光まちづくりを外部に発信することを目的としたイベントで、年1回開催します。地域の観光まちづくりの実践者を招聘し、観光まちづくりの取り組み事例に関する講演や実践者同士のパネルディスカッションなど、観光まちづくりについての幅広い議論が展開される場となっています。本フォーラムは、オンライン視聴の参加申し込みも受け付けますので、誰でもリアルタイムで参加でき、実際にチャット機能などで質問もできるようになっています。開催が近づきましたら、皆さんにオンライン参加用のURLを案内しますので、積極的に視聴してください。



2020(令和2)年度～2022(令和4)年度に、以下の「観光まちづくりフォーラム」が開催されました。

- ◆ 第1回 2020(令和2)年11月26日(木)  
「観光まちづくりフォーラム」～持続可能な地域づくりに向けて～  
パネルディスカッション・テーマ：  
「地域を見つめ、地域を動かす」
- ◆ 第2回 2021(令和3)年11月8日(月)  
「観光まちづくりフォーラム」～持続可能な地域の実現に向けて～  
パネルディスカッション・テーマ：  
「私たちの考える観光まちづくり」
- ◆ 第3回 2022(令和4)年11月15日(火)  
「観光まちづくりフォーラム」～持続可能な地域の実現に向けて～  
パネルディスカッション・テーマ：  
「観光まちづくりのリアル、そして未来」



◆ 第3回 2022(令和4)年5月25日(水)

テーマ：「横浜の都市デザインと郊外住宅地のこれから」

ゲスト：都市プランナー、横浜国立大学・横浜市立大学客員教授、  
元横浜市創造都市推進部長・都市デザイン室長 秋元康幸氏



◆ 第4回 2022(令和4)年7月6日(水)

テーマ：「デジタルで進めるまちづくり・  
加賀市のスマートシティの取り組みについて」

ゲスト：石川県加賀市政策戦略部長兼CMTO 横堤 恒章氏



◆ 第5回 2022(令和4)年10月12日(水)

テーマ：「地域資源を活かした吉野町のまちづくり」

ゲスト：奈良県吉野町町長 中井 章太氏



「観光まちづくりカフェ」は、年間2～3回程度、ざっくばらんな形で行われる、学部内での勉強会・交流会です。地域で活躍されているまちづくりの第一人者を呼んで地域の実践例について講演していただいた後、ゲストと教員をパネリストとしたパネルディスカッションや意見交換会を通して理解を深めていく形となっています。学生の参加も歓迎しており、学生が地域づくりの主役と直接交流できる貴重な機会となっています。

2022(令和4)年度は、左記の「観光まちづくりカフェ」が実施されました。※ゲストの所属等は実施当時のものです。



観光まちづくりCafé



# たまプラーザキャンパス

## 主な施設紹介

東急田園都市線たまプラーザ駅から静かな住宅街を進むとたまプラーザキャンパスが見えてきます。正門を入ると目に飛び込んでくるのは木材の意匠が印象的な1号館です。その先には2号館、さらに歩を進めると広い球技場にたどりつきます。その向こうにある緑色の屋根の建物が観光まちづくり学部の学びのメイン施設、若木21です。

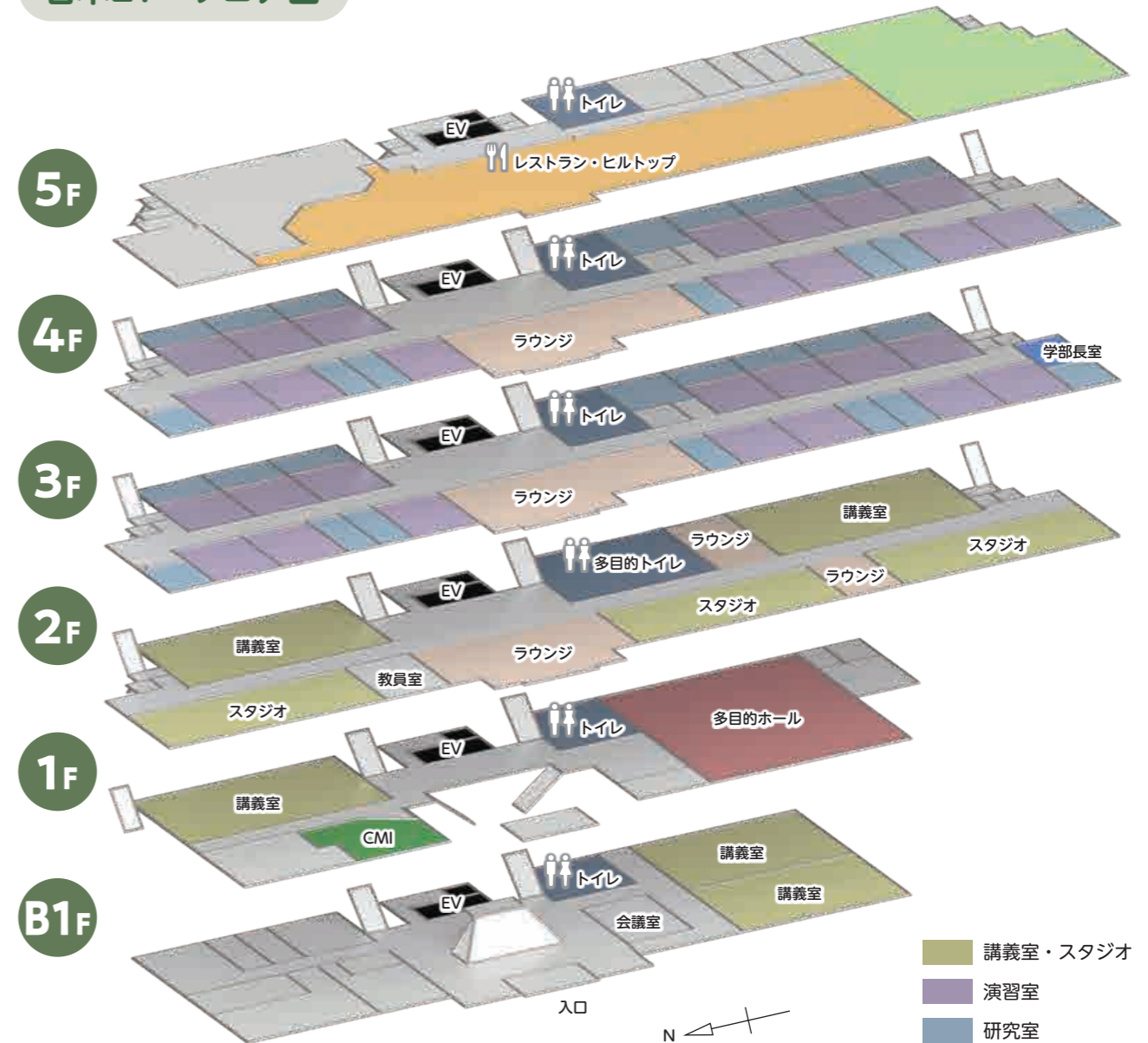


### たまプラーザキャンパス

- ① 1号館  
講堂/教室/理科実験室  
ピアノレッスン室/音楽教室  
調理実習室/図画工作室  
被服実習室/リトミック室  
コンピュータ教室  
たまプラーザ事務課/教員室  
保健室/学生相談室  
教育実践総合センター  
生協売店/多目的室/乳児室  
観覧室/保育室  
実験実習室/ICT教室
- ② 2号館  
人間開発学部研究室・資料室  
図書館・視聴覚ブース  
カフェラウンジ「万葉の小径」
- ③ 3号館  
研究室/資料室/  
地域ヘルスプロモーションセンター
- ④ SPORTS SQUARE 1  
アリーナ/剣道場  
測定室ほか
- ⑤ 5号館  
和室/アトリエ  
体育系クラブ・サークルフロア  
学術・文科系クラブ・サークル  
フロア  
音楽・演劇練習室/収蔵庫
- ⑥ 若木21  
研究室/演習室/教室/  
教員室/スタジオ/  
多目的ホール/CMI  
スカイレストランヒルトップ
- ⑦ SPORTS SQUARE 2
- ⑧ SPORTS SQUARE 3  
柔道場  
トレーニングルーム  
多目的ホール  
ミーティングルーム
- ⑨ 青葉寮(スポーツ学寮)
- ⑩ 野球場
- ⑪ 球技場
- ⑫ テニスコート
- ⑬ 遊歩道(万葉の小径)

## 観光まちづくり学部の学びのメイン施設 [若木21]

### 若木21 フloor図



- 講義室・スタジオ
- 演習室
- 研究室



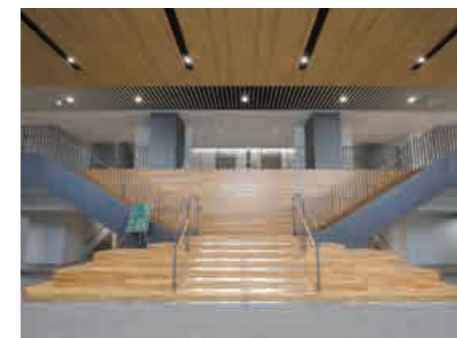
1号館



球技場から見た若木21



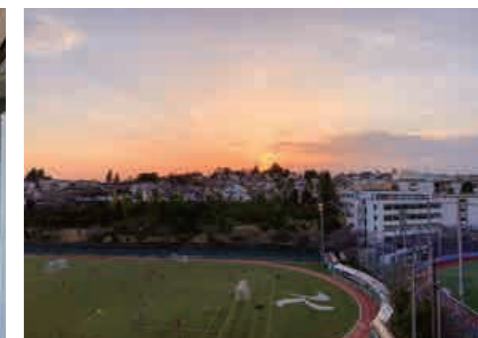
若木21エントランス



エントランスホール



ラウンジ



ラウンジからのぞむ夕日



## 学びのメイン施設 [若木21]

若木21は観光まちづくり学部の新設に合わせて内部をリニューアル。大型モニターなど最新設備を導入し、内装デザインにもこだわり、キャンパスライフの充実が図られました。教員や学生たちが議論し、語らい、笑い合う、そんな光景があらこちらで繰り広げられています。



講義室

スライドやパワーポイントを映す大型モニターが設置されており、オンライン授業や外部のゲストスピーカーを招くときにも対応。



演習室

全面ガラスのドアとスケルトン天井というスタイリッシュな環境の中で学ぶことができます。教員の研究室が隣接しているので質問や疑問などがあれば気軽に行けるのも特長です。

### 学食 5階には眺めがバツグンのスカイレストランがあります!



スカイレストラン「ヒルトップ」

素晴らしい景色を眺めながらの食事タイムはなんと贅沢。眼下には広々とした球技場が、正面には図書館などがある2号館や緑豊かな万葉の小径などが目を楽しませてくれます。



和室

5階にはスカイレストランに加え、床の間や炉が切られた本格的な茶室や、広い和室も設けられています。茶道部の練習の場となるほか、近隣住民が利用することも可能です。

麺メニュー  
人気No.1は



まぜそば  
魚介豚骨風味

### 休憩と自習のスペース

1号館や若木21をはじめ、キャンパス内の建物には、ところどころに休憩スペースが設けられています。また、授業以外の時間を有効活用できる自習スペースもあり、快適な学びをサポートします。



多目的ホール(若木21)

若木21の1階には全国の銘木を使った家具類を備えたホールがあります。ランチを食べたり、会話を楽しんだり、リフレッシュするのに最適な空間です。

#### 自習スペースとコピー機

パソコン作業ができる自習コーナーは課題をこなしたり発表準備に使ったりできると学生たちに大好評。学生専用のコピー機も設置されており、適宜利用できます。



#### コンピュータ教室



1号館2階にあるコンピュータ教室にはパソコンが何十台も配置されています。各学生に与えられているアカウントで操作を開始。快適なネットワーク環境のもとで自主学習ができます。

## 図書館 [2号館] 2～4階 (4階が入口)

國學院大學の建学の精神は告諭に謳われているとおり、「本ヲ立ツル」ことにあります。それは、史資料を有効に利用した学び・探求にほかなりません。國學院大學の図書館には180万冊以上もの本が収蔵されています。たまプラーザキャンパスの図書館は1992(平成4)年、2,345㎡の広さで開館しました。



自主学習スペース

図書館では、単に本を借りるだけでなく、新聞記事や視聴覚資料などの閲覧、セルフサービスなどでのコピーなどもできます。また、静かな環境で自習できるスペースなども用意されています。



たまプラーザキャンパスの図書館は、人間開発学部の学びに関連する教育関係や絵本などが多数集められていますが、観光まちづくり学部の開設に合わせて観光やふるさと創生、民俗学などの資料の充実も図られています。本学部長の西村幸夫教授の著書も揃っています。蔵書検索システム(OPAC)で検索できるほか、貴重な資料やコレクションは「図書館デジタルライブラリー」で閲覧できます。探している本がない場合は、渋谷キャンパスやレファレンスサービスでほかの図書館などから取り寄せるサービスも提供されています。

### 利用ガイド

#### 【開館時間】

9時～19時30分(月～金曜)  
9時～16時30分(土曜)

詳細は図書館ホームページ

<https://www.kokugakuin.ac.jp/student/lifesupport/library>

#### 情報メモ

### 利用できる 他大学の図書館

(2022年2月7日現在)

渋谷、たまプラーザ両キャンパス周辺には、國學院大學生であれば館内利用などができる図書館が多数あります。

- 「横浜市内大学図書館コンソーシアム」………神奈川県立大学図書館など12館
- 「山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム」…学習院大学図書館など8館
- 「渋谷4大学図書館連携」………青山学院大学図書館など3館

#### 博物館

渋谷キャンパスには國學院大學博物館があります。日本文化の講究に必要な資料を収集・保存し、学術的な研究成果を一般に公開するとともに、広く学内外の研究教育活動に資することを目的として設置されました。常設展、企画展ともに國學院大學の学生に限らず誰もが無料で観覧できます。また國學院大學の学生は、東京国立博物館をはじめ、国立美術館(6館)について、学生証を提示するだけで、無料(所蔵作品展)ないし割引(企画展)で観覧できます。



## 快適なキャンパスライフのためのサポート [1号館 / SPORTS SQUARE]

### 手続き・就職支援 (1号館)

教職員が一体となり、さまざまな学生支援体制を整え、大学生活を楽しく過ごせるための環境づくりを行っています。



たまプラーザ事務課

教務や学生生活、キャリアサポートなどの窓口があり、大学生活や単位履修などを総合的に対応しています。困ったこと、わからないことなどがあった時は、気軽に相談・質問できます。



証明書発行機

就職するときや定期を買うときなど、証明書の提出を求められることがあります。証明書発行機が設置されているので、必要などきにいつでも証明書を入手できます。



キャリアサポートスペース

自分の適性や価値観などに応じた進路選択ができるよう、高い専門性をもった職員が個別相談を行っています。就職活動や進路に関する雑誌やパンフレット、求人票なども多数用意されています。

### 体と心の相談 (1号館)

学生一人ひとりが身体ともに健やかに大学生活を送れるよう専門スタッフがサポートしています。



保健室

常に2人以上の保健師が常駐し、学内で生じた外傷などに対して応急処置を行っています。また、必要に応じてたまプラーザ周辺の医療機関へ紹介したり、健康に関する相談に応じたりもしています。



学生相談室

「大学でやりたいことが見つからない」「満足感や充実感がない」「夜眠れない」など自分一人では解決しにくい問題や悩みに、専門の訓練と経験を積んだスタッフ(臨床心理士・公認心理師・精神科医)が対応します。

### 國學院大學生協 (1号館地下1階)



軽食や飲み物のほか、文房具や参考書などが販売されています。授業で使用する教科書も購入できます。國學院大學オリジナルのクッキーやこくびよんのぬいぐるみなどのグッズも充実。運転免許取得や各種資格講座の申し込み、卒業式の着物・袴のレンタルなどのサービスも行っています。

### スポーツ・健康づくり (SPORTS SQUARE)

國學院大學は野球や柔道、陸上など運動部の活動が盛んです。体育実技の授業や課外活動のための施設がSPORTS SQUARE(スポーツスクエア)1~3です。本格的なトレーニング機器やトレーニングルームが完備されています。



SPORTS SQUARE 3



トレーニングルーム

## 憩い・交流 [2号館]

### 散策できる「万葉の小径」(遊歩道)

キャンパス正面右手の公道沿いの歩道から2号館奥の緑地公園までの一帯は万葉集に歌われるさまざまな植物、約150種が植栽されています。植物の名とともに大伴家持らの歌が書かれたプレートも配され、万葉集に親しみながら散策できます。



### おいしい食事や飲み物を楽しめる「カフェラウンジ万葉の小径」



さまざまなメニューを楽しめます。どれも美味しくボリューム満点。しかも栄養バランスも考えられています。万葉の小径に面したオープンテラス席では、心地よい風に包まれながらお茶や食事を楽しめます。

人気No.1は



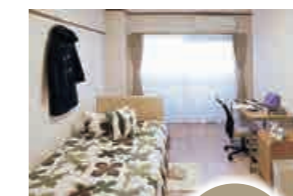
名物「鶏天丼」

### 一人暮らしのサポート [学寮]

國學院大學では、親元を離れて一人暮らしをする学生が、安心かつ安定した学生生活を送る環境を提供するため、東急田園都市線沿線に男女それぞれの寮をもっています。たまプラーザキャンパスだけでなく、渋谷キャンパスへのアクセスも便利です。寮には留学生もおり、共に生活しながら異文化理解を深めることもできます。

#### ●学寮 常磐木 (女子寮)

食堂や学習室、会議室、ランドリーなどの共用設備が揃っています。各部屋でのインターネット接続も可能です。



たまプラーザ  
まで18分

所在地 横浜市青葉区荏田町434-1  
最寄駅 東急田園都市線江田駅徒歩8分  
入寮定員 一人部屋 114名  
寮費 月額70,000円(電気料金とインターネット使用料込)  
食費(参考) 月額18,480円(朝夕2食) 土日祝日を除く21日換算

#### ●学寮 まほろば (男子寮)

食堂や大浴場や、ランドリー、IHキッチンコーナーなどがあり、玄関はオートロック、インターネット接続も可能です。



たまプラーザ  
まで15分

所在地 川崎市宮前区宮崎1-6-15  
最寄駅 東急田園都市線宮崎台駅徒歩5分  
入寮定員 一人部屋 72名  
寮費 月額62,300~67,300円(月~土曜夕食込)

※学寮の詳細は、渋谷キャンパス学生事務部学生生活課へお問い合わせください。電話：03-5466-0145 E-Mail：gakusei\_s@kokugakuin.ac.jp



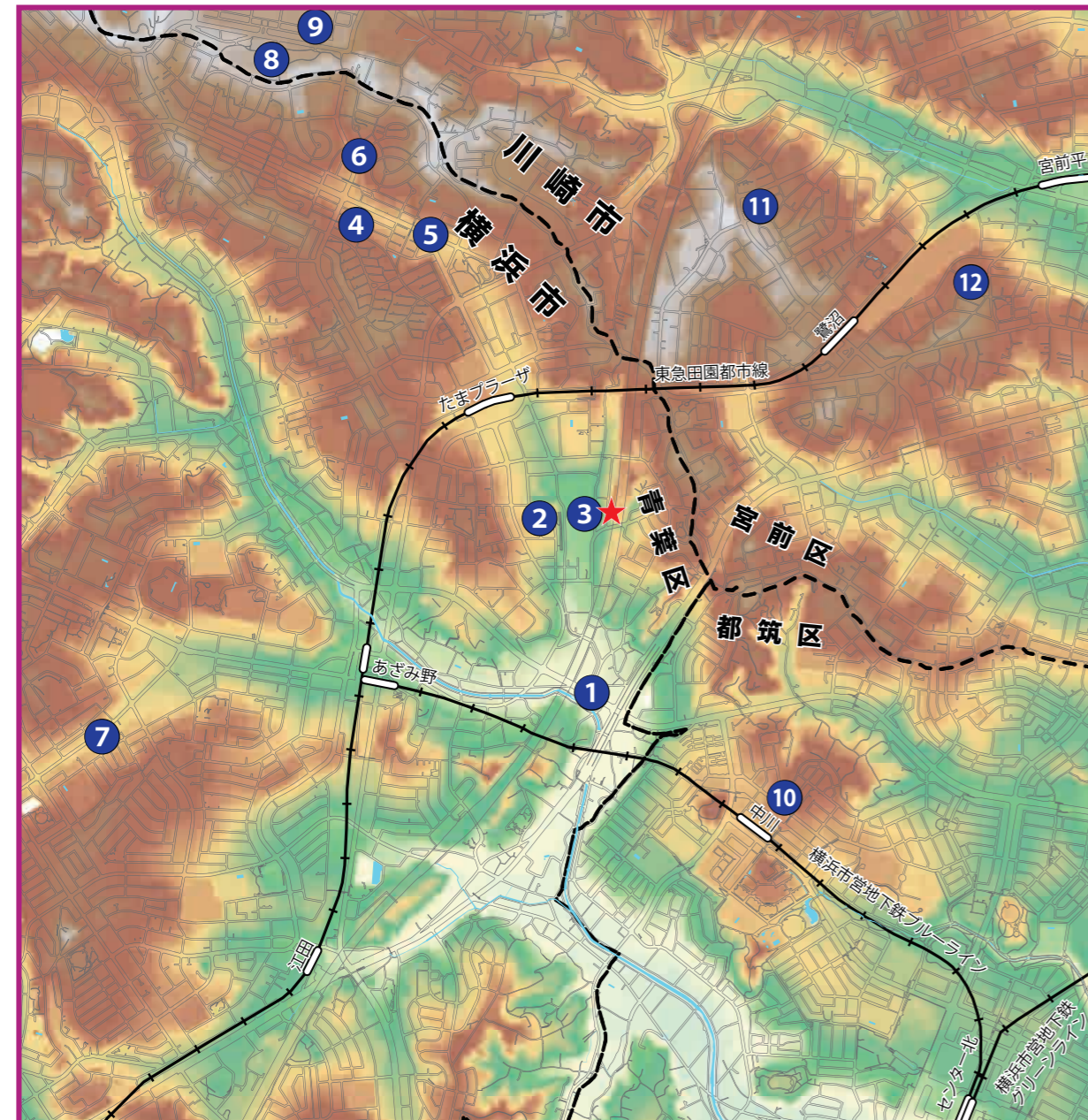
# 地形図で見るたまプラーザキャンパス

たまプラーザキャンパスのある横浜市青葉区は、東を都筑区、西を町田市、南を緑区、北を川崎市に接しています。その面積は35.06km<sup>2</sup>。横浜市内では戸塚区に次ぐ広さです。

横浜といえば、「港」や「海」をイメージするかもしれませんが、「丘」や「坂」をイメージできるのも特長です。青葉区は、多摩丘陵の東端に位置し、海拔高度が高く、起伏に富んだ地形となっています。区の中央部を流れる鶴見川をはじめ、早瀬川や恩田川などのいくつもの河川が丘陵を分断・削剝して谷底低地を樹枝状に形成しており、かつては台地と低地の織りなす緑豊かな里山景観が広がっていました。

造成・宅地化が進んだ現在でも、まちを歩いたり、公園や緑地を散策したりすると、その地形や景観を感じ取ることができます。たまプラーザキャンパスも、野球場や競技場のある低地、1号館や若木21などのある台地からなります。1号館と2号館の階数のズレも、横浜の「丘」「坂」を象徴しています。

- ①早瀬川 ②國學院大學たまプラーザキャンパス・万葉の小径 ③桜並木 ④美しが丘 ⑤100段階段
- ⑥クルドサック ⑦桜通り ⑧菅生緑地 ⑨川崎市中央卸売市場北部市場 ⑩中川 花と緑の散歩道
- ⑪鷺沼北公園(梵天山) ⑫東京メトロ鷺沼車両基地



★若木21  
 15 90 0 0.5 1 km

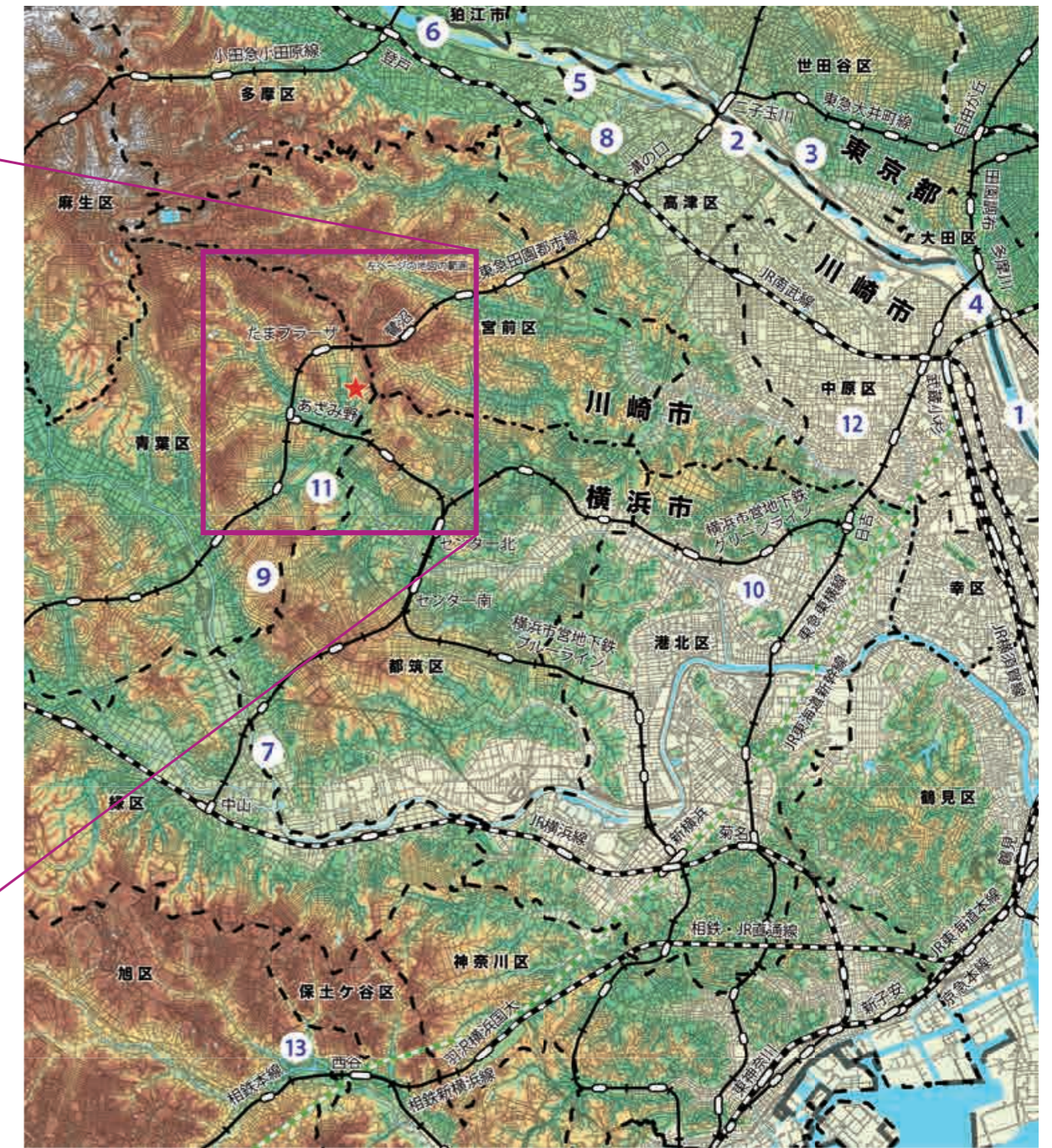


この地形図は、地理情報システム(GIS)を利用して本学教員が作成したものです。

地形図をじっくり見たら、次は現地を歩いてみるのが、「観光まちづくり」への一歩です。自分で情報を調べつつ、キャンパス周辺を散歩・散策してみましょう。また、GISを使って色々な地図を作ってみるのも良いでしょう。QGISという、無料のGISもあります。

いろいろなことが発見できるかもしれません。

- ①多摩川 ②二子橋 ③等々力渓谷 ④多摩川浅間神社・丸子の渡し ⑤宇奈根の渡し ⑥登戸の渡し
- ⑦鶴見川 ⑧津田山 ⑨鎌倉街道・中道 ⑩鎌倉街道・下道
- ⑪矢倉沢往還(大山街道・厚木街道・国道246号) ⑫多摩川低地 ⑬帷子川



★若木21  
 0 120 0 1 2 4 km



## 入学者受入れ方針 ～アドミッション・ポリシー～

観光まちづくり学部では、以下のような学生を受け入れます。

- ・観光・交流を通じた持続可能な地域の形成や振興に関する学問的な基礎を学びたいという意欲がある者。
- ・上記の学問的な基礎をもとに、地域社会の再生、活性化及びまちづくりに貢献したいという意欲がある者。
- ・既存分野の壁を越えて能動的に学ぶ向上心を保持し、積極的に地域に働きかけようという意欲がある者。

上記の方針に基づき、以下の観点で入学希望者を審査します。

- 【AP1】 本学部で学ぶ分野に関する教科・科目について、高等学校卒業程度の基礎学力を備えているか。  
 【AP2】 地域社会やその持続可能性に対して問題意識を持ち、論理的に考え、自分の考えを表現するための基礎的な力を持っているか。  
 【AP3】 自身の興味・関心にしたいが、主体的に活動に取り組み、またはその成果について第三者からの評価を得ているか。

### 入学までに身につけるべき教科・科目

「国語」「数学」「外国語(「コミュニケーション英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」)」「英語表現Ⅰ、Ⅱ」を中心とした基礎学力を前提に、「地理歴史」「公民」「理科」の中から幅広く学習していること。

### 一般選抜入学制度(個別学力試験)について

	V方式(大学入学共通テスト利用入試)		A日程			B日程
	3教科型	5教科型	3教科型	得意科目重視型	学部学科特色型	
試験日	1/13(土)・1/14(日)		2/2(木)	2/3(金)	2/4(土)	3/2(木)
概要	大学入学共通テストの成績のみで判定		本学独自の個別入学試験のみで判定(オールマークセンス方式)日程により判定方法の異なる3タイプの入試			<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学独自の個別入学試験のみで判定</li> <li>・数学は記述式、その他はオールマークセンス方式</li> <li>・英語検定試験スコア利用可能</li> </ul>
科目・教科	必須:「外国語」から1科目 選択:「国語」「地理歴史」「公民」「数学」「理科」の5教科から2科目(「理科」で「理科①」を選択した場合は3科目)	必須:「外国語」から1科目 選択:「国語」「地理歴史」「公民」「数学」「理科」の5教科から4科目(「理科」で「理科①」を選択した場合は5科目)	以下3科目による受験。(いずれも必須) ・「外国語」 ・「選択科目(日本史B、世界史B、政治・経済、数学ⅠAおよびⅡBから試験当日に択一)」 ・「国語」または「理科(物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物から試験当日に択一)」			以下2科目による受験。 必須:「外国語」 選択:「国語(現代文)」または「数学(数学ⅠA)」から1科目

※詳細は、一般選抜入学試験要項をご確認ください。

### 総合型・学校推薦型選抜入学試験 「選考のポイント」

#### 志望理由書

何のために本学に入学しどのように学ぼうと思っているのか、また、社会に出てどのように活躍したいと思っているのか、さらに、自分をしっかりと分析し、優れているところをアピールしてください。あなたが住んでいる地域やゆかりのある地域に対して、どのような興味・関心を抱いているか、また、もしあればそうした地域とどのように関わってきたかを記してください。

#### 活動レポート

自分自身の学びの経験について、主体的に学び経験してきたことを中心に、設定したタイトルに沿って記してください。なお、こうした活動を証明できる書類等を添付してのアピールも可能です。

#### 面接試験

面接官に論理的かつ独創的にアピールできる表現力を評価の主な対象とします。その上で、提出した書類を基に質疑を行い、的確に回答できるかも評価の対象となります。

※入学試験制度により、この他にも提出書類を求める場合があります。また、面接試験での質疑内容は入学試験制度により異なります。詳細は入学試験要項をご確認ください。

	入学制度	選考方法	AP1	AP2	AP3	本入試制度の狙い
一般選抜	A日程	個別学力試験	◎	○		高等学校で履修する科目について、高等学校卒業相当の学力を持つ学生を受け入れます。
	B日程	個別学力試験	◎	○		
	V方式	大学入学共通テスト	◎	◎		
総合型選抜	公募制自己推薦(AO型)	調査書	◎		○	観光まちづくり学部での学修に必要な能力・資質と意欲を持つ受験生を、第1次選考(調査書、志望理由書、活動レポート、観光まちづくり学部独自課題に基づく書類選考)、第2次選考(観光まちづくり学部独自課題の説明及び第1次選考提出書類に基づく質疑)の2段階で総合的に選考します。
		志望理由書		◎	○	
		活動レポート		○	◎	
		地域分析レポート	◎	◎		
		解決策提案シート	○	◎		
	面接試験		◎	○		
	観光まちづくり学部特別選考	調査書	◎		○	観光まちづくり学部での学修に必要な能力・資質と意欲を持つ受験生を総合的に選考します。
		志望理由書		◎	○	
		個別学力試験/大学入学共通テストの成績	◎	○		
	外国人留学生入学試験	志望理由書		◎	○	観光まちづくり学部での学修に必要な能力・資質と意欲を持つ受験生で、外国籍であり、日本の高等学校卒業相当の学力を持つ者を、第1次選考(書類選考)、第2次選考(面接試験)の2段階で総合的に選考します。
活動レポート			○	◎		
日本語小論文		○	○			
面接試験			◎	○		
院友子弟等特別選考	調査書	◎		○	院友子弟を対象とし、観光まちづくり学部での学修に必要な能力・資質と意欲を持つ受験生を総合的に選考します。	
	志望理由書		◎	○		
	活動レポート		○	◎		
	課題図書に基づくレポート	◎	○			
	地域分析レポート	◎	◎			
	解決策提案シート	○	◎			
面接試験		◎	○			
系列三高校推薦	調査書	◎		○	観光まちづくり学部での学修に必要な能力・資質と意欲を持つ受験生を本学系列三高等学校の推薦に基づいて受け入れます。	
	志望理由書		◎	○		
	活動レポート		○	◎		
	資格・検定試験の成績	○		◎		
	推薦書	○		◎		
協定校推薦	調査書	◎		○	観光まちづくり学部での学修に必要な能力・資質と意欲を持つ受験生で、本学と連携教育協定の実施を定めている高等学校等の在籍者を総合的に選考します。	
	志望理由書		◎	○		
	活動レポート		○	◎		
	資格・検定試験の成績	○		◎		
	推薦書	○		◎		
	授業レポート	◎	○			
面接試験		◎	○			
指定校制推薦	調査書	◎		○	本学から依頼した高等学校または中等教育学校の校長の推薦に基づき、観光まちづくり学部での学修に必要な能力・資質と意欲を持つ受験生を、書類と面接試験から総合的に選考します。	
	志望理由書		◎	○		
	活動レポート		○	◎		
	推薦書	○		◎		
スポーツ推薦	調査書	◎		○	観光まちづくり学部での学修に関心があり、かつ運動競技において活躍が期待される者を受け入れます。	
	志望理由書		◎	○		
	推薦書	○		◎		
	小論文試験	◎	○			
	面接試験		◎	○		